

平成29年度 事業報告書 決算書



子ども服等リユースコーナー「コアラのぽっけ」
(大町市総合福祉センターエントランスホール)



社会福祉法人 大町市社会福祉協議会

平成29年度 事業報告書

おじいちゃんと はたけで大こん ぬきました

(大町北小学校1年 関川巴琉さん)



平成29年度 福祉啓発標語 「ほのぼの賞」

社会福祉法人 大町市社会福祉協議会

目次

■ 主な会議・行事等(P1)

■ 寄付採納(P5)

■ 主要事業の実績

I 地域福祉推進基盤の強化

1. 法人運営基盤の強化(P7)

- (1) 法人運営事業
- (2) 資産管理・退職共済・処遇改善事業
- (3) 災害時支援体制の強化

2. 地域福祉活動の財源確保(P13)

- (1) 会員組織強化事業
- (2) 赤い羽根共同募金運動推進事業

3. 公益事業の推進(P15)

II お互いさまのまちづくり

1. 地域における支え合い活動の推進(P18)

- (1) 地域ふれあい交流事業
- (2) 住民支え合いマップ事業
- (3) 小地域福祉ネットワーク事業
- (4) 地区社協連携強化事業
- (5) 市民ふれあい広場の開催

2. ボランティア活動の推進(P23)

- (1) ボランティアセンター運営事業
- (2) 有償ボランティア事業

III 安心して暮らせるまちづくり

1. 生活支援活動の推進(P26)

- (1) 心配ごと相談事業
- (2) 福祉輸送サービス事業
- (3) 日常生活自立支援事業
- (4) 成年後見支援センター事業
- (5) 豊かな暮らし応援事業

2. 高齢者福祉活動の推進(P32)

- (1) 居宅介護支援事業
- (2) 訪問介護事業
- (3) 訪問入浴介護事業
- (4) 通所介護事業
- 【1】デイサービスひなたぼっこ
- 【2】デイサービスこすもす

【3】デイサービスみさか

【4】デイサービスみあさ

3. 障がい者福祉の推進(P37)

- (1) 障がい理解促進事業
- (2) 障がい者余暇活動支援事業
- (3) 障がい者就労支援事業
- (4) 地域生活支援事業
- 【1】障害福祉サービス計画支援事業
- 【2】大北圏域障害者相談支援事業
- 【3】発達障がいサポーター研修事業
- 【4】障害者地域活動支援センター事業
- 【5】障がい者等生活支援事業
- ① 移動支援サービス
- ② 日中一時支援事業
- ③ いこいの家事業

(5) 障がい福祉サービス事業

【1】障がい者居宅介護事業

【2】多機能型障害福祉サービス事業

4. 子育て支援活動の推進(P46)

- (1) 子育て応援ネットワーク事業
- (2) 育児支援ヘルパー派遣事業
- (3) 療育支援事業

5. 経済的支援活動の推進(P49)

- (1) 生活困窮者等自立支援事業
- (2) 資金貸付事業
- (3) 災害見舞金等支給事業

IV 受け継がれるまちづくり

1. 福祉における福祉意識の啓発(P52)

- (1) 福祉情報発信事業
- (2) 地域福祉意識啓発事業

2. 地域の担い手育成(P54)

- (1) 福祉教育推進事業
- (2) 生活支援体制整備推進事業

3. 地域福祉活動団体の育成(P56)

- (1) 企業ボランティア育成事業
- (2) 地域福祉活動団体育成事業

■ 主な会議・行事等

期 日	内 容	会 場
4月1日	第1回理事会（新理事・監事）	総合福祉センター
3日	職員辞令交付式（会長）	//
5日	囲碁「十段戦第3局」前夜祭（会長）	くろよんロイヤル ホテル
7日	定住促進協働会議定期総会（副会長）	市役所
10日	心配ごと相談・司法書士相談（常務理事）	総合福祉センター
11日	三役会（正副会長・常務理事） 大北圏域介護保険事業者連絡協議会会計監査（常務理事）	//
12日	社協役職員歓送迎会（正副会長・常務理事）	立山プリンスホテル
13日	評議員選任・解任委員会（常務理事）	総合福祉センター
14日	市町村社会福祉協議会事務局長会議（常務理事）	浅間温泉文化センター
19日	民生児童委員推薦会（会長）	市役所
20日	大町地区社協評議員会（常務理事）	総合福祉センター
21日	市民生児童委員協議会役員会・歓送迎会（正副会長）	//
24日	心配ごと相談・司法書士相談（常務理事）	//
25日	所属長会議（常務理事）	//
26日	大北圏域介護保険事業者連絡協議会理事会 （会長・常務理事）	//
28日	国際芸術祭実行委員会臨時総会（会長） 大町アーティスト・イン・レジデンス事業推進協議会総会（会長）	市役所
5月3日	大町ソフトボール連盟開幕式（会長）	運動公園
5日	子どもの日公衆浴場無料開放	総合福祉センター
8日	心配ごと相談・司法書士相談（常務理事）	//
13日	地域支え合い体制づくり協議会講演会（常務理事）	サン・アルプス大町
15日	人権推進協議会総会・研修会（副会長）	市役所
16日	三役会（正副会長・常務理事）	総合福祉センター
17日	アルプス囲碁村推進協議会総会（常務理事）	市役所
18日	2017 市民ふれあい広場幹事会（会長・常務理事）	総合福祉センター
21日	市身体障害者福祉協会定期総会（会長）	//
22日	心配ごと相談・司法書士相談（常務理事）	//
23日	所属長会議（常務理事）	//
26日	大北圏域介護保険事業者連絡協議会総会（会長・常務理事）	社公民館
30日	人権教育実践カススキルアップ講座（副会長）	松本合庁



職員辞令交付式
(4/3 エントランスホール)



地域支え合い体制づくり協議会講演会
(5/13 サン・アルプス大町)

期 日	内 容	会 場
6月2日	れんげ荘運動会（会長・常務理事）	れんげ荘
5日	第2回理事会（理事・監事） 大北社会福祉事業協会理事会（会長）	総合福祉センター 大町商工会館
6日	市青少年問題推進協議会（会長）	市役所
9日	共同募金審査会（会長、常務理事） 信州みちビジョン策定意見交換会（会長） 人権を考える市民の集い（柳澤副会長）	総合福祉センター 大町合庁 大町北小学校
12日	心配ごと相談・司法書士相談（常務理事） 市要保護児童対策地域協議会（会長） 評議員選任・解任委員会	総合福祉センター 市役所 総合福祉センター
13日	三役会（正副会長・常務理事）	総合福祉センター
17日	大北地区障がい者運動会（会長）	//
18日	常盤地区敬老会（会長）	アプロード
20日	県社協評議員会（会長）	県社会福祉総合センター
21日	中信社会福祉協会評議員会（会長）	松本市役所梓川支所
22日	第1回評議員会（正副会長、常務理事） 第3回理事会（理事・監事）	総合福祉センター //
25日	社地区敬老会（会長）	黒部観光ホテル
27日	所属長会議（常務理事） 安全衛生委員会（常務理事） 市行政改革推進委員会（会長）	総合福祉センター // 市役所
7月6日	八坂地区老人スポーツ大会（会長） 大北地域包括医療協議会総会（会長） 市青少年育成市民会議総務部会（会長）	八坂小学校 大北医師会館 市役所
11日	役員研修会（正副会長・常務理事） 三役会（正副会長・常務理事）	総合福祉センター
12日	市民ふれあい広場実行委員会（会長・常務理事）	//
13日	市行政改革推進委員会（会長）	市役所
19日	大北支部年金委員総会（常務理事）	相模組
25日	所属長会議（常務理事）	総合福祉センター
27日	成澤税理士による経営研修会（正副会長・常務理事）	//
28日	大北ブロック事務局長会議（常務理事）	松川村ゆうあい館
8月2日	れんげ荘納涼大会（会長） 鹿島荘納涼大会（常務理事）	れんげ荘 鹿島荘
3日	市民生児童委員協議会役員会（常務理事）	市役所
4日	長野県福祉懇談会（会長）	メルパルク NAGANO
8日	三役会（正副会長・常務理事）	総合福祉センター
9日	市健康づくり推進委員会（会長） 市民生児童委員協議会全体会（常務理事）	中央保健センター サン・アルプス大町
18日	民生委員推薦会（会長）	市役所
19日	美麻ふれあいまつり（会長） 市青少年健全育成市民大会（会長）	美麻総合福祉センター サン・アルプス大町
22日	所属長会議（常務理事）	総合福祉センター
24日	市国保運営協議会（会長）	市役所
26日	平地区敬老会（会長）	平公民館
29日	北アルプス成年後見支援センター運営委員会小委員会（常務理事）	総合福祉センター

期 日	内 容	会 場
9月6日	大北圏域介護保険事業者連絡協議会理事会（会長・常務理事）	総合福祉センター
11日	三役会（正副会長・常務理事）	〃
13日	長野県社会福祉大会（正副会長・常務理事）	佐久市コスモホール
15日	美麻地区敬老会（会長）	ぽかぽかランド美麻
18日	大町地区敬老会（会長）	大町文化会館
19日	市総合福祉センター運営懇話会（常務理事）	総合福祉センター
20日	ふれあいプラザ運営推進会議（常務理事）	ふれあいプラザ
26日	所属長会議（常務理事）	総合福祉センター
27日	中信社会福祉協会理事長葬儀参列（会長） 八坂地区敬老会（会長）	法祥苑 明日香荘
28日	第4回理事会（正副会長・常務理事）	総合福祉センター
29日	障がい児・者希望の旅事業（会長）	野尻湖
10月2日	大町市アルプスマラソン実行委員会（会長）	市役所
6日	空き家等対策協議会（会長）	〃
11日	大北圏域介護保険事業者連絡協議会理事会（会長・常務理事）	総合福祉センター
15日	大町アルプスマラソン開会宣言式（会長）	運動公園陸上競技場
16日	三役会（正副会長・常務理事）	総合福祉センター
19日	長野県戦没者遺族大会（会長） 大町市老人体育祭（会長） 県下市町村社協局長会議～20日（常務理事）	市文化会館 総合体育館 鹿教湯
20日	災害・遺児見舞金給付（会長）	市内
23日	大北地域包括医療協議会幹事会（会長）	大北医師会館
24日	所属長会議（常務理事）	総合福祉センター
26日	中間監査（常務理事）	〃
30日	大北社会福祉事業協会理事会（会長）	大北福祉会館
11月1日	平成30年度予算ヒアリング（正副会長・常務理事）	総合福祉センター
3日	赤い羽根共同募金街頭募金（常務理事）	カインズホーム
6日	中信地区社会福祉協会評議員会（会長）	安曇野市梓川支所
10日	民生児童委員協議会スポーツ交流会（会長・常務理事）	運動公園体育館
13日	市戦没者追悼式（会長）	大町公民館分室
14日	三役会（正副会長・常務理事）	総合福祉センター
20日	年金・健康保険委員合同研修会（常務理事）	松本市中央公民館
22日	市子ども・子育て審議会（会長）	市役所
25日	大北圏域介護保険事業者連絡協議会全体研修会・公開講演会（会長・常務理事）	平公民館
28日	所属長会議（常務理事）	総合福祉センター
12月5日	公正採用選考人権啓発推進研修（常務理事）	サン・アルプス大町
6日	難病対策関係者研修会（会長）	大町合庁
12日	三役会（正副会長・常務理事） 産業医職場巡視（常務理事） 県青少年育成指導者・青少年サポーター研修会（会長）	総合福祉センター デイひなたぼっこ ホクト文化ホール
13日	民生委員推薦会（会長）	市役所
22日	市子ども・子育て審議会（会長） 第5回理事会（正副会長・常務理事）	市役所 総合福祉センター
26日	災害見舞金給付（会長） 所属長会議（常務理事）	市内 総合福祉センター
28日	仕事納めの式（会長・常務理事）	総合福祉センター

期 日	内 容	会 場
1月4日	仕事始めの式 職員表彰（会長）	総合福祉センター
8日	折弁カラオケグラウンドチャンピオン大会（会長）	市文化会館
9日	三役会（正副会長・常務理事） 市総合戦略推進委員会（会長） 市総合計画審議会（副会長）	総合福祉センター 市役所 //
12日	平成30年度予算ヒアリング（正副会長・常務理事） 新春賀詞交歓会（正副会長）	総合福祉センター 黒部観光ホテル
16日	福祉啓発標語選考委員会（正副会長・常務理事）	総合福祉センター
23日	所属長会議（常務理事）	//
30日	産業医職場巡視（常務理事）	//
2月1日	市総合戦略推進委員会（会長）	市役所
3日	大町市社会福祉大会（正副会長・常務理事）	サン・アルプス大町
7日	市社会福祉審議会（副会長） 市生涯学習のまちづくり推進本部委員会（常務理事）	市役所
9日	民協全体研修会・新年会（会長・常務理事）	立山プリンスホテル
13日	三役会（正副会長・常務理事）	総合福祉センター
14日	青少年育成市民会議常任委員会（会長）	市役所
15日	市国保運営協議会（会長） 市健康づくり推進委員会（会長）	// 市中央保健センター
19日	大町アルプスマラソン実行委員会（会長） 市地域情報化推進委員会（副会長）	市役所 市役所
20日	大北社会福祉事業協会理事会（会長） 社会福祉法人トップセミナー（副会長・常務理事）	大北福祉会館 長野パースミル会館
22日	市都市計画審議会（会長）	市役所
23日	ボランティアセンター運営委員会（常務理事）	総合福祉センター
27日	所属長会議（常務理事）	//
3月2日	共同募金事務局長会議（常務理事）	キッセイホール
6日	三役会（正副会長・常務理事）	総合福祉センター
7日	大北圏域介護保険事業者連絡協議会理事会（会長・常務理事）	//
8日	市子ども会育成連絡協議会役員会（会長）	市役所
12日	共同募金審査委員会（会長・常務理事）	総合福祉センター
13日	県将来世代応援県民会議（常務理事）	大町合同庁舎
14日	ふれあいプラザ大町運営推進会議（常務理事）	JAFふれあいプラザ
16日	理事会（正副会長・常務理事） 共同募金運営委員会（常務理事） 市空家等対策協議会（会長）	総合福祉センター // 市役所
19日	心配ごと相談・司法書士相談（常務理事） 市社会福祉審議会（副会長）	総合福祉センター 市役所
22日	市健康づくり推進委員会（会長）	市中央保健センター
23日	長野県社会福祉協議会評議員会（会長）	長野市
24日	長野県護国神社評議員会（会長）	美須々会館
26日	大北地域包括医療協議会理事会・幹事会（会長）	大北医師会館
27日	評議員会（正副会長・常務理事）	総合福祉センター
28日	特別養護老人ホーム「リーベおおまち」開所式（会長） 所属長会議（常務理事）	リーベおおまち 総合福祉センター
29日	中信社会福祉協会評議員会（会長） 市地域情報化推進委員会（副会長）	松本市梓川支所 市総合情報センター

■ 寄付採納

① 寄付者一覧（寄附金）

寄せられた寄付金は、ボランティア基金に積立て、ボランティアセンター運営委員会で用途を協議のうえ取崩し、寄付者の意向を尊重しながら有効活用を図っています。

期 日	寄付者（敬称略）	金額（円）
5月 3日	大町ソフトボール連盟	51,400
5月31日	辰巳五郎	12,535
6月 7日	アルチェ	4,000
6月28日	市立大町総合病院医療社会事業部地域連携室	64,810
7月 3日	大町岳陽高校文化祭食品販売係	10,000
7月25日	よってって鮎貝商店	5,651
8月18日	匿名	30,000
8月23日	大町市元市議会議員の会	50,000
9月27日	大町市児童センターまつり実行委員会	16,036
10月13日	大町市陶芸の家	10,000
10月17日	大北建設労働組合	3,050
10月31日	匿名	2,000
11月 8日	相生町長生会	13,211
11月22日	ろうきん大町支店運営委員会	28,150
11月29日	88ボランティア	10,000
12月 6日	老松	6,000
	匿名	4,914
12月15日	新しい編み物サークル	12,000
12月18日	匿名	6,025
12月25日	大町市老人クラブ連合会	120,000
1月18日	昭和電工ユニオン大町支部	46,568
1月30日	大町青年会議所シニアクラブ	30,000
2月26日	大町市婦人会	14,589
3月 1日	昭和電工(株)大町事業所	60,000
合 計		610,939



大町市老人クラブ連合会より（12/25）



市立大町病院地域連携室より（6/28）

② 寄付者一覧（物品）

寄付物品は本会の事業で活用したほか、食品や消耗品は管内の福祉施設に配布しました。

期 日	寄付者（敬称略）	物 品（数量等）
4月28日	竹村光吉	紙おむつ多数
5月18日	匿名	お昼寝用まくら 30 個
5月23日	匿名	衣料品多数、パイプハンガー6 本
6月28日	神栄町女性部	日用品多数
8月28日	匿名	掃除機 1 台
8月30日	池田アキ子	トルソー
9月21日	SANBA の会	シュレッダー、ビデオデッキ、 血圧計、フットバス各 1 台
11 月 20 日	大町商工会議所女性会	米、缶詰、レトルト食品等 485 点
12 月 4 日	降旗章	りんご 20 箱
12 月 6 日	渡邊卓也	トイレットペーパー 18 ロール
12 月 11 日	信光実業(株)大町支店	カレンダー 29 本
12 月 14 日	日本禁煙友愛会大町支部	自走式車いす 2 台
12 月 21 日	北沢学	門松 1 対
12 月 28 日	渡邊卓也	トイレットペーパー 12 ロール 箱ティッシュ 15 箱
1 月 15 日	矢口多加子	ポータブルトイレ 1 台

こまったら 助けてくれる友だちがいる わたしの友だちだから物

（大町西小学校3年 仁科葵湖さん）

しあわせは 一人一人の 思いやり

（大町北小学校4年 西牧 愁さん）

勇気ある あなたの行動 笑顔の社会

（仁科台中学校2年 黒岩梨音さん）

勇気だし 一声かけて 咲く笑顔

（大町岳陽高等学校3年 関口李音さん）

あなたの優しさ気くばりが 地域をつなぐ かけはしに

（大町 竹村和幸さん）

平成 29 年度 福祉啓発標語 最優秀作品

■ 主要事業の実績

I 地域福祉推進基盤の強化

地域で活躍する関係者の参加と協働の下、法人運営基盤の強化、地域福祉活動の財源確保、災害時支援体制の強化、生活課題の調査・研究、公益事業の推進に取り組み、地域福祉推進基盤の強化に努めました。

1. 法人運営基盤の強化

地域福祉を推進する中核組織として、安定した法人運営に努めるとともに、各積立金を活用し、福祉人材の確保、計画的な設備整備、地域における生活支援活動の活性化等に努めました。

(1) 法人運営事業

社会福祉法人制度改革に適切に対応しながら、経営管理・内部統制・苦情解決機能の強化に取り組みました。

項 目	実施結果・内容
地域社会の情勢に応じた会議の開催	<ul style="list-style-type: none"> ○ 毎月第2火曜日を基本に三役会を開催 ○ 毎月第4火曜日を基本に所属長会議を開催 ○ 理事会を6回、評議員会を2回開催（詳細別記）
経営管理体制の強化	<ul style="list-style-type: none"> ○ 毎月の所属長会議内で経営戦略会議を開催し、経営状況を把握 ○ 経費節減と収益確保 ○ 新任役員等研修会を開催 <ul style="list-style-type: none"> ◆ 7月11日 理事・評議員・第三者委員11名参加 ○ 税理士による経営研修会を開催 <ul style="list-style-type: none"> ◆ 第1回 7月27日 三役・監事・所属長 ◆ 第2回 11月27日 三役・監事・会計職員
内部統制機能の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○ 定期監査を実施（詳細別記） ○ 毎月の所属長会議内で安全衛生委員会を開催（詳細別記） ○ 事業報告・決算書、事業計画・予算書をホームページで公開 ○ 個人情報・特定個人情報保護規程に基づき、情報管理を徹底
苦情解決機能の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各事業所に苦情受付担当者を設置し、第三者委員を設置 ○ 苦情を宝物として拝聴・記録し、業務改善に反映
働きやすい魅力的な労働環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ○ 役員員慶弔見舞金制度を見直し <ul style="list-style-type: none"> ◆ 支給対象に評議員を追加し、支給内容を充実 ○ 改正育児・介護休業法への対応 <ul style="list-style-type: none"> ◆ 就業規則及び育児介護休業規則を改正 ○ 改正労働契約法への対応 <ul style="list-style-type: none"> ◆ 所属長会議において、対応方法を検討 ◆ 就業規則を改正
大北地域内の連携強化	<ul style="list-style-type: none"> ○ 大北ブロック社協事務局長会議を開催 7月28日 ○ 大北ブロック社協職員研修に参加 11月21日 ○ 大北圏域の事業者との連携強化 <ul style="list-style-type: none"> ◆ 大北圏域介護保険事業者連絡協議会の事務局運営 ◆ 大北保健福祉圏域自立支援協議会の事務局運営

● 理事会の開催状況

回数	期 日	内 容	
第1回	4月1日	議案	第1号 会長・副会長及び常務理事の選任について 第2号 顧問の委嘱について 第3号 評議員候補者の推薦について 第4号 評議員選任・解任委員会の招集について
		協議	部会委員の委嘱について
第2回	6月5日	議案	第5号 平成28年度事業報告について 第6号 平成28年度決算について 第7号 経理規程の一部改正について 第8号 個人情報保護規程の一部改正について 第9号 平成29年度第1回評議員会の招集及び議題について 第10号 評議員選任・解任委員会運営規程の一部改正について 第11号 評議員候補者の推薦について 第12号 評議員選任・解任委員会の招集について
		協議	次期役員の選任について
		報告	第1回評議員選任・解任委員会の結果について
第3回	6月22日	議案	第13号 会長・副会長及び常務理事の選任について 第14号 顧問の委嘱について 第15号 評議員選任・解任委員の選任について
		協議	部会員の委嘱について
		報告	第2回評議員選任・解任委員会の結果について
第4回	9月28日	議案	第16号 庶務規程の全部改正について 第17号 正規職員就業規則の一部改正について 第18号 期間任用職員就業規則の一部改正について 第19号 非常勤職員就業規則の一部改正について 第20号 育児・介護休業等に関する規則の一部改正について 第21号 業務管理体制整備規程の制定について 第22号 小口資金貸付金欠損処分について
第5回	12月22日	議案	第23号 業務管理体制整備規程の一部改正について 第24号 経理規程の一部改正について 第25号 ボランティア基金設置規程の一部改正について
		協議	平成29年度社会福祉功労者表彰の選考について
第6回	3月16日	議案	第26号 定款の一部変更について 第27号 正規職員就業規則の一部改正について 第28号 期間任用職員就業規則の一部改正について 第29号 非常勤職員就業規則の一部改正について 第30号 経理規程の一部改正について 第31号 金銭管理及び財産保全サービス実施要項の制定について 第32号 平成29年度第1次補正予算について 第33号 平成30年度事業計画について 第34号 平成30年度予算について 第35号 平成29年度第2回評議員会の招集及び議題について

● 評議員会の開催状況

回数	期 日	内 容	
第1回	6月22日	議案	第1号 平成28年度事業報告について 第2号 平成28年度決算について 第3号 経理規程の一部改正について 第4号 個人情報保護規程の一部改正について 第5号 役員等に対する報酬等の支給の基準及び額の決議について 第6号 理事及び監事の選任について
第2回	3月27日	議案	第7号 定款の一部変更について 第8号 平成29年度第1次補正予算について 第9号 平成30年度事業計画について 第10号 平成30年予算について 第11号 理事の選任について

● 定期監査の実施状況

期 日	指摘事項等	改善事項等
平成28年度 決算監査 5月25日	正規職員の採用等職員体制の充実を	採用計画の策定について検討予定
	全職員を対象とした経営研修の実施	経営研修を2回開催
	協議体等、行政と密に連携を望む	生活支援COを中心に引き続き連携を深める。
	介護保険事業が厳しさを増す中、社協は住民サービス継続が責務。安定経営に努力されたい。	毎月経営戦略会議を開催し、安定経営に努めた。
平成29年度 中間監査 10月26日	介護保険及び障害福祉事業の収入計上の変更修正を検討されたい。	平成30年度中に補正予算等に対応を検討
	徴収不能引当金は、半年ごとに督促状を送付し、宛先不明の場合は欠損処分を検討されたい。	債務者の現況調査を徹底
	正規職員の採用について計画的に	採用計画の策定について検討予定

● 安全衛生委員会の開催状況

期 日	内 容
4月25日	H29安全衛生管理体制、職員定期健康診断、自衛消防隊編成
5月23日	産業医の職場巡視の計画
6月27日（総会）	H28事業報告、H29事業計画
7月25日	夏の交通安全運動
8月22日	交通事故報告
9月26日	秋の全国交通安全運動、安全運転管理者法定講習報告
10月24日	ストレスチェックの実施
11月28日	年末の交通安全運動、交通事故等報告、冬季の転倒災害防止対策
12月26日	ストレスチェック結果通知
1月23日	産業医の職場巡視
2月27日	産業医の職場巡視
3月28日	春の全国交通安全運動

【評価と展望】

- 社会福祉法改正に伴う定款変更により、定数を理事 10・監事 2・評議員 18 名とした初年度であり、4 月 1 日に正副会長を選任した後、6 月 22 日の定時評議員会で理事・監事を再度選任し、同日の理事会で正副会長を選任して 2 年間の新体制が発足した。
- 新任の理事・監事・評議員及び役員研修会を開催し、本会の組織や経営状況等について理解を深めていただいた。
- 三役・監事・所属長及び会計職員を対象とした経営研修会を開催し、財務諸表の見方や活用方法等について顧問税理士に解説していただき、経営意識の向上を図った。
- 新たに業務管理体制整備規程を制定して法令遵守の組織体制と責務を明記し、法令遵守の意識の向上を図った。
- 社会福祉法の改正で義務化された財務諸表等の公表には、電子開示システムの試行運用から本格稼働まで、厚生労働省の通達等に従い、適切に対応できた。

(2) 資産管理・退職共済・処遇改善事業

各積立金を有効活用し、福祉人材の確保、計画的な設備整備、地域福祉・生活支援活動の財源確保に努めました。

項 目	実施結果・内容
福祉人材の確保 (人件費等積立金取崩：14,050千円)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 役職員研修の実施(詳細別記) … 充当額 93千円 ○ 役職員福利厚生事業の実施(内訳別記) … 充当額2,157千円 ○ 非正規職員の処遇改善補填(詳細別記) … 充当額2,732千円 ○ 正規職員の退職共済掛金補填 … 充当額3,049千円 ○ 介護保険・障害福祉サービス事業人件費補填 … 充当額5,818千円
計画的な設備整備 (施設整備等積立金取崩：2,470千円)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 車両1台購入(福祉輸送サービス) 共同募金配分金の受配を受け不足額充当 … 充当額1,770千円 ○ 受注作業用コンプレッサー購入(障害福祉サービス事業所) … 充当額 256千円 ○ 除雪機購入(デイひなたぼっこ) … 充当額 444千円
地域福祉・生活支援活動の財源確保 (地域福祉活動費等積立金取崩：7,221千円)	<ul style="list-style-type: none"> ○ ふれあい福祉センター運営事業財源不足補填 … 充当額3,310千円 ○ ボランティアセンター運営事業財源不足補填 … 充当額2,322千円 ○ 日常生活自立支援事業財源不足補填 … 充当額 714千円 ○ 資金貸付事業財源不足補填 … 充当額 656千円 ○ 成年後見支援センター事業財源不足補填 … 充当額 219千円

● 役職員研修の実施状況

期 日	内 容	会 場
6月27日	社会福祉協議会職員基礎研修(障害福祉1人)	塩尻総合文化センター
6月12日	小地域福祉ネットワーク研修打合せ(地域福祉1人)	大桑村
6月23日	助け・助けられ体験ゲーム地域懇談会(地域福祉2人)	伊那市
7月5日・11日 18日・25日	行動援護(強度)従業者養成研修(障害福祉1人)	塩尻総合文化センター
7月13日・14日	関東ブロック社協職員合同研究協議会(総務企画1人)	埼玉県さいたま市
7月25日	信州くらしの支え合いネットワーク(地域福祉1人)	塩尻総合文化センター
7月31日	ヘルパー研修(訪問介護)※1	総合福祉センター
8月10日	介護記録研修(介護事業1人)	長野県農協ビル
8月22日	地域まめったいサミット(地域福祉1人)	中条村
8月26日	災害対応研修(全正規職員)※1	総合福祉センター
9月11日	市町村社協中堅・管理者職員研修(地域福祉1人)	長野大学
10月13日	防火管理者協会視察研修(地域福祉1人)	糸魚川市

期 日	内 容	会 場
11月28・30日	調理技術向上研修（訪問介護）※1	中央保健センター
1月31日	市町村社協経理研修第2期（総務企画1人）	県総合教育センター
2月7日	生活支援体制整備事業の推進に向けた市町村支援強化研修会（地域福祉1人）	東京「建築会館ホール」

※1 内部研修

※ その他介護事業係を中心に月1回内部研修を実施

● 役職員福利厚生事業費の内訳 (単位:千円)

産業医	健康診断	ストレスチェック	予防接種	制服貸与	共済会補助	慶弔見舞他
300	918	93	362	44	282	158

● 定期健康診断等の実施状況

実施方法	個別健診	集団健診	ストレスチェック
対 象 者	35歳以上で健康保険に加入している職員	週労働時間20時間以上で、個別健診の対象とならない職員	所定労働時間が週平均20時間以上の職員
期 日	8月～11月の指定日	7/25	11月
実施場所	市立大町総合病院	総合福祉センター	市立大町総合病院
受診者数	93人	32人	126人

● 産業医の職場巡視の実績

事 業 場	総合福祉センター	八坂総合福祉センター	美麻総合福祉センター	デ・イ・ビ・スセンター ひなたぼっこ
期 日	9/12・1/30	8/22・12/19	11/14・3/20	7/18・11/21

● 勤続手当・処遇改善手当の支給実績

名 称	勤続手当	処遇改善手当
算定方法	4月1日現在の勤続年数に応じた月額 (1年:250円、2年:500円、3年:1,000円、以後1年につき1,000円ずつ加算、最高8,000円)	介護報酬及び自立支援給付費の半期ごとの処遇改善加算額を、対象職員の労働時間に応じて配分 介護職員:6月146円・12月149円/時 その他職員:6月37円・12月38円/時
支給対象者	勤続1年以上の嘱託・臨時・非常勤職員	嘱託・臨時・非常勤・登録職員
支給時期	毎 月	6月・12月
支給実績	3,124,760円	17,031,959円

【評価と展望】

- 福祉人材の確保については、生産年齢人口の減少と介護需要の増大に伴う人手不足が見込まれることから、他の事業者とも連携しながら対策を講じていく必要がある。
- 処遇改善事業と退職共済事業の会計区分を設定し、介護・障害福祉事業から所属職員分を繰り入れることで、各事業の実質収支を把握することができた。
- 各事業の収支改善により積立金の取崩額を抑制し、一定の積立額を確保することができたが、今後も制度改定による収益減少が見込まれることから、所属長会議等を通じ相互の情報共有と意識の統一を図る中で、収入の確保に努めるとともに、経費節減策を講じていく。
- 産業医の職場巡視や職員の定期健康診断、ストレスチェックを定期的の実施し、日常からの職員の健康管理や職場環境の整備に努めた。さらに、次年度以降、健康診断対象者の拡大等を検討したい。
- 積極的に内外研修に参加することで、職員研修の充実を図った。

(3) 災害時支援体制の強化

市内における団体連携を考えるとともに、意識啓発として新たな住民向け講座の開設し、住民相互の協力体制を強化するとともに、県内での支援体制についても強化することができた。

項 目	実施結果・内容
災害時職員初動マニュアルに基づく参集訓練	大田市地震総合防災訓練に合わせ、マニュアルに基づく訓練を実施し、また研修会を開催 ○実施日 8月26日 ○対象者 所属長並びに正規職員 ○内 容 ①訓練 市防災訓練の発報（メール及び防災無線による）に合わせ初動マニュアルに基づく参集訓練及び施設点検訓練 ②研修 長野県出前講座を活用し避難所設営訓練「HUG」
災害ボランティアセンター運営マニュアルの策定	災害時職員初動マニュアルと連携された、「災害ボランティアセンター運営マニュアル」を策定
DSAT（ディーサット）への参加	県内で災害が発生した場合、県社協とともに被災地災害ボランティアセンター運営支援を県内社協応援協定に基づき先遣隊として派遣する特別チーム（DSAT）に参加する ◆DSAT委嘱式 ○開催日 4月21日 ○会 場 長野県社会福祉協議会 ○内 容 委嘱書を受けるとともに、6～7名で構成された12チームの編成及びDSATの役割について研修 ◆DSAT研修会 ○開催日 3月9日 ○会 場 松本市浅間温泉文化センター ○内 容 講演「災害時における社協の役割と期待」 演習「災害ボラセン運営支援者に求められるもの」
災害時連携研修会の開催	地区ごとに、防災関係団体相互の連携を深め考える機会として平、社地区にて開催 ◆平地区 開催日/11月4日 参加者/40名 ◆社地区 開催日/11月18日 参加者/35名
災害サポーター養成講座	地域防災の大切さについて理解者を増やすことを目的に災害サポーター養成講座を開設 ○開催日 2月3日 平成29年度大田市社会福祉大会にて開催

● 義援金の募集・送金状況

募集期間	送金済み金額（円）	義援金の内容
28.4.15～31.3.31	受付中	熊本県地震災害義援金（熊本県のみ）
28.10.1～29.3.31	1,207	岩手県台風10号大雨等災害義援金
28.10.25～29.3.31	3,268	平成28年鳥取県中部地震災害義援金
28.12.26～29.6.30	232,378	平成28年度新潟県糸魚川市大規模火災義援金
29.8.31～29.12.28	8,485	平成29年九州北部大雨災害義援金
29.7.27～29.8.31	550	秋田県大庵災害義援金
継続募集中～31.3.31	受付中	東日本大震災義援金
合 計	245,888	

【評価と展望】

- 職員招集訓練については、年1回ではあるが、継続し行うことにより、社協職員として災害時の対応について意識が育ってきている。
- 災害ボランティアセンター運営マニュアルについては、次年度以降訓練等を行い、内容については随時更新していく必要がある。
- DSATについては、実際の災害時により機能するよう、研修会等の開催を県社協に対し依頼していくことが必要。
- 災害サポーター養成講座を新設したことにより、各地域で実施する防災訓練での一つのメニューとして活用いただけるよう引き続き周知を行う。

2. 地域福祉活動の財源確保

地域内の生活課題に取り組む住民主体の活動を支援するため、必要となる財源の確保に取り組みました。社協会員組織の強化と、赤い羽根共同募金運動を推進しました。

(1) 会員組織強化事業

社協会費の使途を分かりやすく広報し、会員組織の強化を図りました。会費は、ボランティア団体や地区社協・小地域福祉ネットワークの活動助成など、地域福祉の推進に活用しました。

項 目	実施結果・内容
一般会員の募集	○ 一般会員（1世帯当たり年額600円）：7,530世帯を目標に、4～5月、自治会長等に納入依頼文・チラシを送付し、協力を依頼
特別会員の募集	○ 特別会員（1人当たり年額3,000円）：730人を目標に、7～8月、前年度会員等に納入依頼文・チラシを送付し、民生委員に取りまとめの協力を依頼
法人会員の募集	○ 法人会員（1団体当たり年額5,000円）：10法人を目標に9月に職員が直接前年度特別会員の内、個人以外の会員に協力を依頼
会員の確保	○ 「社協おおまち」に一般会員・法人会員募集について掲載 ○ 「社協おおまち」に特別会員名簿・法人会員名簿を掲載 ○ 自治会未加入の750世帯に納入依頼文・社協の活動内容を掲載したチラシを送付し、会員確保に努めた

● 年度別会員別会費集計表（過去5カ年）

（金額の単位：円）

年度	一般会員（一般会費）			特別会員（特別会費）			法人会員（法人会費）	
	世帯数	金 額	前年比	人数	金額	前年比	団体	金額
H25	7,744	4,646,400	98.5%	766	2,298,000	99.4%		
H26	7,673	4,603,800	99.1%	771	2,313,000	100.7%		
H27	7,602	4,561,200	99.1%	759	2,277,000	98.4%		
H28	7,535	4,521,000	99.1%	732	2,196,000	96.4%		
H29	7,384	4,430,400	98.0%	681	2,043,000	93.0%	14	70,000

※法人会員は今年度から開始

【評価と展望】

- 今年度より法人会員の募集を開始。社協職員が直接協力を依頼するとともに振込依頼書を活用することで新たな会員確保に努めた。
- 市の人口の減少や自治会未加入者の増加、全国的な寄付意識の変化に伴い会費は減少傾向にあるが、引き続き地域に根差した社協事業への理解と周知を図り会員確保に努める。

(2) 赤い羽根共同募金運動推進事業

共同募金は、都道府県を単位とする共同募金会が実施主体となり、各市町村はその支部組織として活動を行っており、当市も含め大半の市町村では、社協で事務局を担っています。全国的に募金額が減少傾向となっているなか、寄付付き商品の販売や職域募金を行う等、募金活動を積極的に行いました。



項 目	実施結果・内容
前年度募金実績に基づく配分金事業の実施	○5月初旬に配分決定額である 7,465,658円（市社協分を含む）を各地区社協に配分した
目標額の設定と達成に向けた各種募金運動の実施	○6月に目標額を設定した。例年の募金活動に加え、ふれあい広場で寄付付き商品としてフランクフルトを販売するとともに、美麻地区では職域募金を積極的に行った。その結果、目標額の約97%である8,954,888円の募金を得た
募金目標額を達成するための運動	○市民ふれあい広場では共同募金マスコット「愛ちゃん」の着ぐるみや妖怪ウオッチ資材を活用し、募金活動を行った
公募配分事業	○新たな取り組みとして公募による申請を行い、8団体より申請があり、配分決定を行った

● 募金実績の推移

(単位:円)

年 度	H25	H26	H27	H28	H29
募金目標額	9,707,000	9,688,000	9,656,000	9,543,000	9,236,000
募金実績額	9,799,038	9,690,562	9,520,011	9,134,658	8,954,888

● 平成 29 年度共同募金配分金の内訳

(単位:円)

配分先	高齢者 福祉活動	障害児・者 福祉活動	児童・青少年 福祉活動	住民全般 福祉活動	合 計
地区社協分					
大町地区	592,574	50,000	240,000	560,000	1,442,574
平地区	160,000	40,000	190,000	553,193	943,193
常盤地区	344,677	30,000	540,000	420,000	1,334,677
社地区	309,038	0	40,000	150,000	499,038
八坂地区	200,000	10,000	40,000	60,000	310,000
美麻地区	50,000	10,000	40,000	51,588	151,588
計	1,656,289	140,000	1,090,000	1,794,781	4,681,070
市社協分	237,000	415,000	0	2,132,588	2,784,588
合 計	1,893,289	555,000	1,090,000	3,927,369	7,465,658

● 平成 29 年度市社協配分金事業の内訳

(単位:円)

事 業 名	配分金額	事 業 名	配分金額
福祉団体助成事業	285,000	希望の旅事業	200,000
市民ふれあい広場開催事業	500,000	福祉輸送サービス事業	452,000
社協報発行事業	823,588	心配ごと相談事業	89,000
ボランティアニュース発行事業	370,000	災害見舞金等給付事業	65,000
合 計			2,784,588

【評価と展望】

- 今年度より公募による申請の受付を開始した。今回は、今まで配分を受けていた団体からの申請がすべてだったが、公募形式を広く住民に周知し、新たな申請団体の増加に努める。
- ふれあい広場で寄付付き商品としてフランクフルトを販売した。ふれあい広場では昨年度より多い募金額につながった。
- 全国的に共同募金の額は減少傾向にあるが、募金が何に使われているのか積極的に発信することで、共同募金に少しでも関心を持ってもらうよう努めていく。

5. 公益事業の推進（指定管理施設の管理運営等）

指定管理施設の経営方針「誰もが安心して利用できる地域に根差した良質な施設経営」に従い、総合福祉センター3施設を管理・運営しました。

項 目	実施内容・結果
施設の適切な維持管理	<ul style="list-style-type: none"> ○ 設備の定期点検・保守点検を実施 <ul style="list-style-type: none"> ◆ 灯油地下タンク気密試験（大町・八坂・美麻各1回） ◆ 防災・防災設備点検（3施設各2回） ◆ 電気設備点検（大町・美麻各6回 ※八坂は支所で実施） ◆ 給排水・空調設備点検（3施設各2回） ◆ 自動ドア点検（3施設各3回） ◆ エレベータ点検（大町4回 ※遠隔点検は毎月） ○ 日常清掃（通年）、特殊清掃（大町2回、八坂・美麻各1回）を実施 ○ 建物・設備の破損・故障に迅速に対応し、計画的に整備（内訳別記） ○ 大町市に次年度以降3カ年の整備要望書を提出 ○ 使用量の節減・単価下落により電気料・燃料費を削減（詳細別記）
利用者ニーズの把握とサービスへの反映	<ul style="list-style-type: none"> ○ 大町市総合福祉センター運営懇話会を開催（9月19日） <ul style="list-style-type: none"> ◆ 前年度利用状況・事故発生状況・施設整備状況の報告 ◆ 施設の利用促進について ほか ○ 利用者の声（意見箱）や管理日誌で意見・要望を把握し、随時対応 ○ 自主事業の実施や施設整備等について、市と随時協議
施設の利用促進	<ul style="list-style-type: none"> ○ 公衆浴場無料開放デーの設置 <ul style="list-style-type: none"> ◆ 子どもの日（5月5日 184人） ◆ 敬老の日前日（9月17日 155人） ○ 年末年始の公衆浴場臨時営業 <ul style="list-style-type: none"> ◆ 12月29日（10:00～17:00 55人） ◆ 12月30日（10:00～17:00 97人） ◆ 1月3日（13:00～17:00 79人）※おしるこ振る舞い
施設サービスの向上	<ul style="list-style-type: none"> ○ 5～10月第1金曜日に全職員による環境美化・緑化活動を実施 ○ 館内を禁煙とし、屋外に喫煙所を設置して分煙を徹底 ○ 前年度繰越金等を財源とした施設整備を実施 <ul style="list-style-type: none"> ◆ 各階廊下・1階管理事務室・3階公衆浴場照明をLED化 ◆ 各階女子トイレ・男女脱衣室トイレをウォシュレット化 ○ 公衆浴場サウナマットを変更 <ul style="list-style-type: none"> ◆ クリーニング不要で水はけのよい材質のマットに変更 ○ 3階健康増進コーナーへの自動販売機の追加設置 <ul style="list-style-type: none"> ◆ 9月5日 設置者：障害福祉サービス事業所・南信ヤクルト販売
その他施設の活用等	<ul style="list-style-type: none"> ○ エントランスホールの活用 <ul style="list-style-type: none"> ◆ 子供服等のリユースコーナー「コアラのぽっけ」を常設（平日） ◆ セタコンサートを開催（7月10日） ◆ 絵画や短歌等、市民の作品を随時展示

その他施設の活用等	○ 山の子村キャンプ参加者への公衆浴場解放 ◆ 8月9・10日 福島県からの参加児童延べ69人 ○ 大町アルプスマラソン参加者公衆浴場割引 ◆ 10月15日 総入浴者数259人 ○ 美麻ふれあいまつりの開催 ◆ 8月19日 参加者173人
-----------	--

● 各施設の利用状況

施設名	項 目	開設日数	利用実績
大町市総合福祉センター	公衆浴場	311日	延べ 30,530 人 (98.2 人/日)
	会議室等貸館	355日	延べ 1,939 団体 (5.5 団体/日) 延べ 18,103 人 (51.0 人/日)
八坂総合福祉センター	デイサービス	256日	延べ 3,718 人 (14.5 人/日)
美麻総合福祉センター	デイサービス	256日	延べ 4,577 人 (17.9 人/日)
	会議室等貸館	243日	延べ 63 団体 (0.3 団体/日) 延べ 1,244 人 (5.1 人/日)

● 公衆浴場利用状況の推移（大町）

年 度	H25	H26	H27	H28	H29
一 般 (人)	8,822	7,102	6,849	7,180	6,895
65 歳以上 (人)	19,099	19,310	19,164	20,619	20,479
障がい者 (人)	2,210	1,844	2,199	2,266	2,008
小中学生 (人)	1,306	906	1,016	1,137	1,022
優待券等 (人)	315	140	128	104	126
合 計 (人)	31,752	29,302	29,356	31,306	30,530
利用料収入 (千円)	7,173	6,474	6,256	6,665	6,525

● 貸館利用状況の推移（大町）

年 度	H25	H26	H27	H28	H29
利用件数 (団体)	2,268	1,988	2,042	2,108	1,939
利用人数 (人)	19,979	20,293	19,306	20,938	18,103

● 電気料・燃料費の実績

(単位：千円)

施設	電気料			燃料費		
	H29	H28	増減	H29	H28	増減
大町	6,178	5,666	512	1,530	1,412	118
八坂	259	327	▲68	85	75	10
美麻	1,397	1,267	130	326	213	113
合計	7,834	7,260	574	1,941	1,700	241

● 各施設の設備・備品等修繕実施状況

施設	破損・故障箇所	修繕内容	費用 (円)
大町	公衆浴場入口ドア開閉不具合	戸車、加ザ-交換	39,312
	公衆浴場男湯水風呂水栓漏水	水栓交換	12,960
	自動ドア吊車劣化・異音	吊車交換	23,760
	公衆浴場男湯サウナ室壁面・座面腐食	大工工事	176,580
	公衆浴場男女脱衣室床材劣化・破損	刃刃仏張り替え	312,876

施設	破損・故障箇所	修繕内容	費用（円）
大町	1 階トイレ入口照明点灯不能	人感センサー交換	16,200
八坂	食器洗浄機漏水	洗浄ポンプ交換	113,724
	特殊浴室入口引き戸開閉不具合	戸車交換	34,560
	階段非常灯照明点灯不安定	照明器具交換	44,712
	浴室水栓温度調節不能	温度調節部交換	16,092
	脱衣室トイレ止水不全	止水弁交換	17,000
美麻	浴槽水位制御不能	電極保持部他交換	16,308
	風呂湯温調整不能	温度調節部交換	54,540
	浴室入口引き戸開閉不具合	戸車交換	35,640
	ろ過機ヘアーキャッチャー漏れポンプ不具合	点検カバー他交換	78,840
	玄関ホール窓開閉不能（5箇所）	下部シール取替工事	204,840
合 計			797,580

● 各施設の設備・備品等整備実績

施設	整備箇所・内容	支出科目	費用（円）
大町	2-3階廊下及び事務所カウンターLED化	消耗器具備品費	81,388
	1 階相談室用チェア5脚	//	24,300
	館内様式トイレウォシュレット化	//	343,440
	公衆浴場脱衣室浴室LED化	//	484,488
八坂	給茶器設置	消耗器具備品費	357,480
	業務用冷凍冷蔵庫更新	//	626,400
合 計			1,917,496

【評価と展望】

- 前年度からの繰越金を財源に、館内照明のLED化を計画的に実施したことで、電力料値上りの影響を最小限に抑制することができた。また、各階女子トイレと男女脱衣室のトイレをウォシュレット化し、利用環境の質の向上を図った。
- 公衆浴場の利用者は、昨年度増加したが、再び減少に転じており、新たな利用増加策を講じる必要がある。
- 次年度でエコキュートのリースが満了し、以後はできるだけ長く使用することでコスト削減が図れることから、専門業者による定期的な点検・整備を実施していく。
- 施設の老朽化が進んでおり、改修が多くなると見込まれるが、複数の業者からの提案を募り、最小限のコストで最大限の効果が得られる提案を見極めていく。
- デイサービスは、登録者数は前年とほぼ同様であるが、利用者の高齢化等によるショート利用・入院等で、日々の利用者が安定しない。
- 地域ボランティアと連携し高齢者や障がい者、保育園児、小中学生が気軽に集える交流活動の拠点としての役割を果たしていく。



子ども服等リユースコーナー「コアラのぼっけ」
（11/11 SAMBA フェスタにて）

Ⅱ お互いさまのまちづくり

お互いさまのまちづくりをめざして、地域の支え合い活動やボランティア活動支援と相互の連携強化を図りました。

1. 地域における支え合い活動の推進

地域にある生活課題の掘り起こしと助け合い活動の活性化のため、ご近所支え合い事業、小地域福祉ネットワーク事業、地区社協連携強化事業に取り組むとともに、市民ふれあい広場を開催しました。

(1) 地域ふれあい交流事業

市内では、すでに住民主体による地域活動が各所で開催されています。それらの地域の資源を皆で共有することが必要であり、地域への訪問活動と情報発信を行いました。

項 目	実施結果・内容		
交流会(サロン)の開催状況把握と活動支援	◆サロン等への訪問活動		
	訪問先	内 容	訪問日
	大原町すこやか会	交流会（大原町の歴史について）	4/15
	大新田町	歌声喫茶	4/22
	山田町	花見交流会（地域防災について研修会）	4/23
	松崎まつば会	ノルディックウォーキング	5/7
	宮田町若葉会	花壇づくり三世代交流会 三世代もちつき大会	5/26 12/21
	ゆずり葉の会	交流会 一人暮らし高齢者宅おせち作り	5/30 11/27.28
	東町はなみずきの会	交流会	6/11
	東中原町なすなの会	七夕三世代交流会	7/8
	高根町たかね会	外出交流会（ゆーぶる木崎湖）	7/8
	中原町ネットワーク	外出交流会（ほかほかランド）	7/14
	十日町	お茶のみサロン	7/26
	ゆずり葉の会	おやき交流会	8/1
	大新田町こだま	居酒屋こだま	9/2、3/24
	桜田町	サロン	9/6
	泉砂原地区	カラオケ会	11/24
	大新田町	体操教室	11/27
	泉	体操教室	11/27
	旭町あさひ会	サロン	12/3
	美麻千見	サロン	1/23
	上一	体操クラブ	3/13
	北原町おひさま会	サロン	3/29

定期的な交流会(サロン)の開催状況把握と活動支援	◆新たな活動の状況把握と周知	
	団体名等	内 容
	六九町 高橋商店	店舗縮小により生じた空きスペースをくつろぎスペースとし、気軽に交流できる場の提供をしている。
	清水 川上商店	酒屋、日用品販売、お惣菜販売に加え、ちょっとした居酒屋のようなスペースがある。店主より、昼間は地域の高齢者等が憩える場になってくれればと活動を開始。
	秋葉林 「みるくサロン」	自宅の一部で、サロンを開始。冬期間を除き、毎週サロンとして開放。
	楽喜（ラッキー） クラブ	少子高齢化の中で、自分たちも楽しめる空間をと、市内空き店舗にて、趣味を楽しむ場として開始。 麻雀や囲碁、将棋、はたおりが楽しめ、新たに考案された「健康麻雀」で楽しめる。
	コミュニティ「大木葉」	八坂大平地区の古民家を改装し、地域住民の集いの場としてH30.4月オープンを目指し準備中。この場所を拠点として、生活支援活動への展開も検討している。
	Smileサロン 健康まあじゃん講座	常盤西山地区で始まったサロン。週1回の歌声サロン。また同日の午後には、健康まあじゃん講座を開催。
	西山住宅 ふれあいサロン	地域に集いの場の必要性を感じ開催。月2回の開催で特に何をするかを決めずに集まる場の提供。何をするかは参加者みんなで考える。
 <p>Smile サロン ～童謡から歌謡曲まで歌声サロンを開催～</p>		

【評価と展望】

- 地域での交流活動については、引き続き訪問活動を継続し、その状態を把握し、支援する。
- 小地域福祉ネットワークなど、以前より継続して活動している団体もある中で、新規に活動する団体が増えてきている。その中で、担い手不足等により活動の継続が困難となっている団体もある。
- 引き続き、地域活動がなぜ必要かを地域の皆さんと一緒に考え、その時々にあった仕組みややり方を考えていくことが必要。

（２）住民支え合いマップ事業

日頃からの地域住民による支え合いが災害時への大きな備えとなることから、防災意識の向上と住民自らが課題を把握しその課題に向き合うことを目的とした「支え合いマップづくり」を他の事業と併せ推進した。

項 目	実施結果・内容
自治会等への説明 会及び作成支援	<p>《集会等でのマップ推進活動》</p> <p>◆日赤奉仕団社分団、男女共同参画合同研修でのマップ説明</p> <p>○会場：社公民館 ○開催日：7月29日 ○参加者：約50名</p> <p>○内容：社地区の自治会毎の地図を使用し、避難所や避難経路の確認 また、要援護者の確認等を仮に行い、マップの作成効果について学んだ</p>
	<p>《自治会でのマップ作成支援》</p> <p>◆山田町自治会</p> <p>○開催日：4月17日（役員との打ち合わせ） 4月23日（住民説明会）</p> <p>○内 容：すでに作成済みのマップについて、新たな役員に、内容 や意義について説明。また、住民に対し説明会を開催</p>

● マップ作成自治会数の推移

年 度	H25	H26	H27	H28	H29
マップ作成自治会数	15	19	23	23	23

【評価と展望】

- 本年度より実施している「災害サポーター養成講座」にて、地域防災の意識を高めるとともに、その手法の一つとして「支え合いマップづくり」を啓発していくことが重要である。
- 支え合いマップは災害への対応手段の一つとして考えられているが、あくまでも地域の状況を把握し課題を発見することが、地域福祉の推進につながりひいては、災害にも強い地域づくりとなる。この目的を更に地域に浸透させていきたい。

（２）小地域福祉ネットワーク事業

既存のネットワークを対象とした研修会を開催するとともに、各ネットワークへの訪問活動を行うことで、活動内容と課題の把握に努めました。

項 目	実施結果・内容
小地域福祉ネットワーク研修会	<p>◆開催日：7月15日 ◆会場：大町公民館分室 講堂</p> <p>◆参加者：45名</p> <p>◆内 容：事例発表 「大桑村 ささえ隊」 「地域の茶の間 ますや」</p> <p>発表者 ・大桑村社協 杉村 信子さん ・ささえ隊長 桶野 直紀さん ・ますや代表 松川久美子さん</p> <p>グループワーク 助け助けられ体験ゲーム</p>

項 目	実施結果・内容
ネットワーク訪問活動	<p>ネットワーク活動の把握に併せ、「安心くらしのもちもちサービス」について周知した</p> <p>◆ 訪問日及び訪問先</p> <p>大原町（4/15）、松崎（5/7）、東町（6/11）、東中原町（7/8）、高根町（7/8）、中原町（7/14）大新田町（9/2、3/24）、旭町（12/3）、北原町（3/29）</p>

● ネットワーク数の推移

年 度	H25	H26	H27	H28	H29
ネットワーク数	43	46	46	46	45

【評価と展望】

- 4月より、有償ボランティアの仕組みである「安心くらしのもちもちサービス」がスタートしたことに併せ、各ネットワーク訪問の際は、事業周知を行った。
- 「もちもちサービス」のニーズが寄せられた際は、ネットワークを中心に担い手の相談を行い、ニーズ解決に結びついた。
- 小地域福祉ネットワークは、本会とともに長年地域福祉について活動やその内容について共有してきている。「もちもちサービス」についても、全体のコーディネートは本会が行い、地域の相談役（コーディネート）はネットワークが中心となってきている。

（３）地区社協連携強化事業

住民主体で地域活動を行っている市内６地区社協との連携強化に努めました。

項 目	実施結果・内容		
災害時連携研修会の開催	○ 地区社協と連携する中で、地域の防災団体相互の連携研修会を開催		
		平地区	社地区
	開催日	11月4日	11月18日
	会 場	平公民館講堂	社公民館講堂
	参加者数	37名	40名
	内 容	<p>講演 「災害発生時の地域の動き」</p> <p>講師 NPO法人地域交流センター 副代表理事 中橋 徹也 氏</p>	

【評価と展望】

- 介護保険制度改正により、小さい範囲での地域ニーズに基づいた支援内容の検討がより重要となる中で、地区社協活動の重要性が増してくる。その中で、市社協と地区社協相互の連携強化を図るため、研修会と通じて合同での事業実施をすることができた。
- 地区社協の単位で、地域ニーズの発掘と資源の開発等の業務を担うコーディネーターの配置が理想である。

(4) 市民ふれあい広場の開催

福祉、子育て、健康、生活環境など、さまざまな分野の参加団体からなる実行委員会を組織し、「市民ふれあい広場」を開催しました。模擬店やステージ発表など、盛りだくさんの催しを企画し、出会い・交流の場を提供しました。

項 目	実施結果・内容
○参加団体で構成する実行委員会による企画・準備（5～10月）	5月18日 第1回幹事会 7月12日 第1回実行委員会 9月27日 第2回実行委員会 10月6日 会場の前日準備 10月7日 市民ふれあい広場当日
○当日の運営	○ 食べ物の振る舞いや販売、障害者施設やボランティア団体等の自主製品の販売など模擬店等が出店 ◆ 参加団体：45団体、コーナー数：55コーナー ○ 特設ステージ ◆ 開会前 おらほのラジオ体操 ◆ ふれあいステージプログラム オープニングセレモニー/ケ・セラ&共同作業所のなかまたちコンサート/大町岳陽高校吹奏楽部演奏/大町のおどり披露/おおまびょんのおお！マーチde体操/フィリピンダンス「サンパギータダンスグループ」/特別養護老人ホームカトレヤバンド演奏
○在り方の検討	○ 第1回幹事会前に市とともに今後のふれあい広場の在り方について検討。福祉に関する企画の充実や各団体のボランティア・市民活動がわかってもらえるよう工夫することとした

● 参加団体数の推移

年 度	H25	H26	H27	H28	H29
参加団体数	59	53	52	45	46

【評価と展望】

- 障がい者による楽団「ケ・セラ」にステージへの出演を依頼した。ケ・セラの演奏では毎年発表を行っている「共同作業所のなかまたち」と一緒になって演奏を行い、多くの観客が演奏に聞き入った。このような企画が障がいへの理解につながっていくことを期待したい。
- 「食べ物コーナー」の出店場所を適度に分散させ、来場者が会場内を回ることによって目的以外の他団体のボランティア・市民活動を見てもらえるようにした。



楽団「ケ・セラ」のコンサート
～ふれあいステージにて～



出張「コアラのぽっけ」
～わんぱく広場内にて～

2. ボランティア活動の推進

ボランティアセンターの活動や役割の周知を図り、ボランティア活動への理解促進と、活動に参加しやすい環境づくりに努めました。

(1) ボランティアセンター運営事業

ボランティアセンター運営委員会の開催やボランティア保険手続き、備品貸出等により、ボランティア活動を支援しました。

項 目	実施結果・内容			
相談・登録・ニーズ把握・コーディネーター機能の充実	○ ボランティアに関する相談、連絡調整、ボランティア登録を実施 ◆ 登録状況 ボランティア団体 105団体 6,744人 小地域福祉ネットワーク 46団体 2,738人			
ボランティアセンター運営委員会の開催	○ ボランティアセンターの適正な運営を図るため、運営委員会を開催 ◆ 第1回 11月6日 10人出席 内 容 平成29年度の取り組み ボランティア基金の活用について ◆ 第2回 2月23日 12人出席 内 容 平成29年度事業報告、ボランティア基金の活用 平成30年度事業計画について			
個人・団体への各種備品の貸出	○ 備品の貸出実績（別表参照） ○ 機材使用実績			
	コピー機	団体数 18 団体	白 2,438 枚	カラー 644 枚
	パソコン	団体数 2 団体	延べ 2 回	
貸出備品整備	○ ボランティア基金を財源として、差し替えベスト 100 枚、マグネット式吹き矢セット6セットを購入整備した			
ボランティアに関する各種保険窓口業務	○ボランティア活動保険加入状況 Aプラン 1,521人 Bプラン 515人 天災Aプラン 1人 ○ボランティア行事用保険、福祉サービス総合補償保険等各種保険加入の窓口業務実施			
ボランティアニュースの発行	○年6回発行（奇数月）全戸、市内小中高校、NPO法人配布 9,500部			
ボランティア研修会の開催	○ボランティアリーダー研修会の開催 ・開催日 3月2日 ・場 所 大田市総合福祉センター大会議室 ・内 容 新貸出備品「マグネット吹き矢」紹介と体験 レクリエーション講習会 講師 種山正子氏 レクリエーションインストラクター ○大北ボランティア地域活動フォーラム参加 開催に向けた実行委員会3回開催 反省会 1 回開催 ・開催日 11月10日 ・場 所 松川村すずの音ホール ・内 容 内容「伝承～今必要とされているボランティア活動～」 長野大学の学生ボランティアとの意見交換			

● ボランティア登録団体数の推移 (単位：団体)

年 度	H25	H26	H27	H28	H29
登録団体数	83	88	98	100	105

● 備品の貸出実績内訳 (単位：件)

品名	車いす	体験用車いす	高齢者疑似体験	シルバーカー	点字器	アイマスク
件数	96	29	13	2	127	65
品名	プロジェクター	スクリーン	テント	ワイヤレスマイク	ポップコーン製造機	綿菓子製造機
件数	105	11	1	4	15	21
品名	ポッチャ	カーレット	ゲーム用品	暗幕	小銭計数機	ジンリキ
件数	17	21	14	2	2	2
品名	白杖	ふれあいの箱	ポータブルトイレ	マグネット吹き矢		
件数	8	1	3	3		

● ボランティアニュースの発行内容

号 数	発行日	主な記事
179号	5月1日	もちもちサービス協力会員募集/ボランティア活動助成金紹介/ ボランティア団体登録と助成金の申請について
180号	7月1日	希望の旅参加者募集/傾聴ボランティア養成研修参加者募集 お出掛けボランティア講座参加者募集/共同募金公募配分事業開始
181号	9月1日	コアラのぽっけ開設/ボランティアグループ紹介 イベント応援ボランティア募集
182号	11月1日	福祉啓発標語募集/県社会福祉大会表彰者紹介 大北ボランティア地域活動フォーラム参加者募集
183号	1月1日	大町市社会福祉大会開催/大町紹介手話ムービープロジェクト紹介 ボランティアリーダー研修会開催
184号	3月1日	福祉啓発標語入選者発表 ボランティア保険のご案内/知って得する社協の講座参加者募集

(3) 有償ボランティア事業

項 目	実施結果・内容			
有償ボランティア コーディネート	希望者等からの要請により、訪問しサービス等へのコーディネートを実施			
	○コーディネート件数 21件			
	○ニーズ内容別件数（1件で複数ニーズあり）			
	内容	件数	内容	件数
	草むしり	5件	買い物支援	2件
	畑の手伝い	1件	ゴミ捨て	3件
	電球交換	1件	庭木の剪定	1件
	部屋の片づけ	4件	制度説明	1件
	お墓の掃除	1件	安否確認	3件
	簡単な大工仕事	1件	灯油入れ	2件
○コーディネート結果				
▼もちもちサービス対応 3件		▼既存の支え合いで対応 7件		
▼他機関と調整 8件		▼その他 6件		

【評価と展望】

- ボランティアセンター運営委員会の定期開催により、ボランティア基金の活用方法やボランティア事業についての詳細な検討と事業実施が行われた。
- 引き続きボランティアに関する相談や調整業務の強化、地域への情報発信に努め、身近で相談しやすいボランティアセンター運営を行う。
- 「もちもちサービス」でのニーズの大半は、既存の団体あるいは、既存の支え合いで解決できるものがほとんどであった。その中で隙間を埋める「もちもちサービス」の仕組みは重要であると感じる。担い手を要請していくことも必要であるが、既存の地域団体や機関と連携し、個別のニーズに対し相談できる関係、チームを組んで対応できる体制を整えることの方が重要と考える。



新たな貸出備品「マグネット吹き矢」
3/2 開催のボランティアリーダー研修会で初披露となりました

「ありがとう」の そのひとことで ぼくの心もホカホカだ

(大町西小学校3年 五十嵐優翔さん)

言葉はね 人の心を動かすよ 思いやりの言葉で やさしさをひろげよう

(大町西小学校3年 岩城楓南さん)

あいさつを いっぱいすれば 幸せだ

(大町西小学校3年 長澤志磨さん)

平成29年度 福祉啓発標語 優秀作品

Ⅲ 安心して暮らせるまちづくり

日常生活で支援を必要とする人が住み慣れた地域で暮らし続けるための各種在宅福祉サービス等を提供し、年齢や性別、障がいの有無に関わらず、誰もが生きがいを持って「安心して暮らせるまちづくり」を推進しました。

1. 生活支援活動の推進

ひとりでは解決できない暮らしの中の悩みごとや、身体状況・居住環境による外出困難、認知症や障がい等による判断能力の低下、雪かき支援員の派遣等に対応するサービスを提供し、生活支援活動の推進に努めました。

(1) 心配ごと相談事業

暮らし中の悩みごとについて、1人で悩むことのないよう、解決の糸口を相談員とともに見出し、いく相談窓口を開設しました。

項 目	実施結果・内容
心配ごと相談	○ 毎月2回開設
司法書士相談	○ 相談件数55件（前年対比6件減）

● 相談内容

（単位：件）

区分	生計	土地 家屋	家族	離婚	財産	金銭 貸借	結婚	近隣	苦情	その他	合計
H28	2	22	5	0	15	6	1	3	0	7	61
H29	1	14	6	3	11	5	0	6	0	9	55

● 相談件数の推移

年 度	H25	H26	H27	H28	H29
相談件数	65	73	55	61	55

【評価と展望】

- 法律に関係する内容にも対応できるよう心配ごと相談と司法書士相談を併せて開設した。
- 大北地域各社協の相談会を含め相談日程を、社協おおまちや有線放送等で周知に努めた。

笑顔ある 優しい気持ち すばらしい

（八坂小学校4年 得可主あさひさん）

ちいきへと 希望よ続け 未来まで

（大町北小学校4年 沢田愛実さん）

平成29年度 福祉啓発標語 優秀作品

(2) 福祉輸送サービス事業

ひとりでは公共交通機関が利用できない高齢者や障がい者等の外出を支援するため、車いすに乗ったまま乗り降りできる福祉車両による送迎サービスを提供しました。

項 目	実施結果・内容
通院や買い物等外出時の福祉車両による移動支援	○ 通院や買い物等の外出支援として福祉車両による送迎サービスを提供 運行時間 平日8:30～17:00（祝日・年末年始を除く） 利用料金 市内500円、市外1kmあたり50円を加算 運行範囲 市内発着で市境から20km以内 ◆ 運行日数・回数 254日・延べ2,458回 ◆ 年度末利用登録者数 144人（うち新規登録者数 49人）
福祉車両の貸出	○ 空き時間に福祉車両を貸し出し（年末年始を除く） ◆ 利用回数 延べ12回
福祉車両の更新	○ 老朽化が著しい三菱のミニキャブ（80あ1189）の登録を抹消し、新たにホンダのステップワゴン（501ひ1540）に更新。愛称を募集した結果、「いきいき号」に決定した
運転手の確保	○ 資格認定職員数 17名

● 年度末利用登録者数の推移

年 度	H25	H26	H27	H28	H29
利用登録者（人）	115	138	142	132	144

● 拠点別運行回数の推移

（単位：回）

年 度	H25	H26	H27	H28	H29
大 町	1,641	1,778	2,179	2,058	2,165
八 坂	462	162	138	139	203
美 麻	234	124	89	91	90
合 計	2,337	2,064	2,406	2,288	2,458

【評価と展望】

- 美麻地区の運行回数は前年度とほぼ同じ実績であったが、大町地区、八坂地区は増加した。
- 新規登録者数も昨年度に比べ増加。登録決定者の数は昨年度が36名だったのに対し、今年度は49名となった。今後、高齢化が進むなかで益々福祉輸送に対する需要は高まるものと考えられる。



(3) 日常生活自立支援事業

大北地域の基幹的社協として、判断能力が十分でない人（認知症、知的障がい、精神障がい等）の福祉サービスの利用援助や、日常的金銭管理等のサービスを提供しました。

項 目	実施結果・内容
福祉サービス利用 援助契約	○ 専門員による相談受付、県社協との協議、契約 ◆ 新規契約 5件 解約 11件 ○ 専門員、生活支援員による利用援助支援 ◆ 支援回数 1,125回（平均94回／月） ○ ケース検討会議の出席 対象者24人 延べ45回
成年後見制度との 連携	○ 成年後見相談会に出席し、判断能力の低下による利用者を相談した 本事業から成年後見制度への移行2件
サービスの向上	○ 県全体の生活支援員を対象とした研修会に参加 ◆ 2期目以降 10月18日 塩尻総合文化センター ○ 町村社協担当者との勉強会 平成29年11月9日

● 年度末契約者数・延べ支援回数の推移

年 度	H25	H26	H27	H28	H29
年度末契約者数（人）	59	75	79	76	70
延べ支援回数（回）	2,490	2,204	2,780	2,570	2,291

● 市町村別・対象者別契約者数（平成 30 年 3 月末現在）

（単位：人）

対象者	大町市	池田町	白馬村	小谷村	合計
認知症高齢者	16	4	4	1	25
知的障がい者	15	1			16
精神障がい者	24	2	2	1	29
合 計	55	7	6	2	70

※ 松川村は平成 28 年度から準基幹的社協として直営で実施。

【評価と展望】

- 新規契約件数は減少傾向である。特に町村においては独自の金銭管理サービスの充実や、次年度単独で本事業を受託する町村もある中で契約件数が減少していると考ええる。また、認知症高齢者より精神障がい者の契約が増加傾向である。
- 判断能力の低下が著しい利用者については、順次、成年後見支援センター、市町村行政、包括支援センター等の関係機関と連携しながら成年後見制度への移行を進めていく。

友情で 一つの虹が かかったよ

（大町北小学校4年 手塚大翔さん）

毎日の あいさつ笑顔が 地域のために

（大町西小学校5年 柳原都月さん）

平成 29 年度 福祉啓発標語 優秀作品

(4) 成年後見支援センター事業

大北地域を対象に、判断能力が十分でない人（認知症、知的障がい、精神障がい等）の成年後見制度の利用に関する相談や制度の普及・啓発を実施。親族や専門職等による支援が難しい人の法人後見を受任するため、北アルプス成年後見支援センターを運営しました。

	項 目	実施内容・結果
実施内容	成年後見制度の利用に関する相談・支援	○常設相談員による相談・支援を実施 ◆延べ92件 ○成年後見無料相談会を開催（毎月） ◆延べ28件 ○日常生活自立支援事業との連携 ◆日常生活自立支援事業から成年後見制度移行2件（専門職後見）
	普及・啓発	○普及啓発研修会を実施 ◆第1回 7月31日 25名参加 内容 講演 「成年後見制度の概要」 「成年後見人の業務（身上監護、財産管理）」 講師 司法書士 帯金康祐氏 社会福祉士 守屋幹雄氏 弁護士 塩野悠子氏 グループワーク ◆第2回 8月23日 17名参加 内容 講演 「介護サービス従事者と成年後見人等」 講師 社会福祉士 守屋幹雄氏 グループワーク ○普及啓発講演会を実施 ◆第1回 10月6日 54名参加（自立支援協議会との共催） 内容 講演 「やさしくわかる成年後見制度」 講師 弁護士 塩野悠子氏 ◆第2回 11月7日 15名参加 内容 講演「おひとりさまの老後と成年後見制度」 講師 司法書士 帯金康祐氏 相談会 3件 ○広報紙、パンフレット、ホームページ等による広報を実施
	法人後見の受任	○家族や専門職等による支援が難しい人の法人後見を受任 ◆28年度末 3件（後見2件、保佐1件） ◆29年度新規 4件（後見3件、保佐1件） ◆29年度終了 3件（後見3件 死亡）
	適正な事業運営	○運営委員会の開催 ◆第1回 3月19日 H29年度事業経過及びH30年度事業計画等 ○小委員会の開催 ◆第1回 4月17日 法人後見受任の適否について ◆第2回 8月29日 法人後見受任の適否について ◆第3回 11月13日 法人後見受任の適否について ◆第4回 1月20日 法人後見受任の適否について ◆第5回 3月19日 法人後見受任の適否について

●相談件数及び法人後見受任の推移

(単位：件)

年 度	H25	H26	H27	H28	H29
相談件数	—	—	—	99	120
法人後見受任件数	—	—	—	3	4

●市町村別・区分別相談件数

(単位：件)

市町村	大町市	池田町	松川村	白馬村	小谷村	圏域外	合 計
件 数	59	20	16	8	1	16	120
区 分	認知症高齢者		知的障がい者		精神障がい者		
件 数	55		22		20		

●市町村別・類型別法人後見受任数(累計)

(単位：件)

類 型	大町市	池田町	松川村	白馬村	小谷村	合 計
後 見		2	2	1		5
保 佐	1	1				2
補 助						
合 計	1	3	2	1		7

【評価と展望】

- 普及啓発活動においては、研修会、講演会を参加対象別にに応じて実施した。また、障がい者関係者、障がい者家族向け講演会や介護サービス従事者向け研修会を実施したことにより、障がい者の相談と介護支援専門員からの相談が増加した。
- 普及啓発活動は、引き続き関係機関の協力を得ながら講演会等を実施していく。
- 法人後見の受任について、市町村行政及び地域包括支援センター、大北圏域障害者総合支援センターとの連携を充実していく。
- 相談・後見業務にあたり、担当職員の資質向上が必要であり研修会等への参加をしていく。



北アルプス成年後見支援センターは
開所から2年が経過しました。
(写真は、H28 開所式の様子 初心を忘れず)

(5) 豊かな暮らし応援事業

生活の不便さを少しでも解消するサービスの提供や、暮らしに役立つ講座の開催を通して、豊かな暮らしの増進に努めました。

項 目	実施結果・内容
美麻診療所患者輸送業務	○ 運行日数 131日（毎週月・水・木曜日） ○ 延べ利用者数 505人（平均3.8人/月）
八坂・美麻配食サービス配達業務	○ 八坂・美麻地区内の高齢者等を対象に、各地域福祉センターを拠点とした配達ボランティアによる配食弁当の配達業務を実施 ◆ 配達件数（八坂：0食 美麻：延べ326食） ◆ 実働ボランティア数（八坂：0人 美麻：1人）
生活支援員（雪かき支援員）派遣業務	○ 独居または高齢者のみ等で雪かきが困難な世帯に支援員を派遣 ◆ 延べ派遣回数 1,392回 ◆ 延べ作業時間 1,107時間30分 ◆ 延べ除雪機使用時間 592時間 ◆ 登録世帯数 231世帯（内実利用世帯数 180世帯） ◆ 雪かき支援員数 56人、3団体 ○ 支援員登録者対象の説明会（11月15日） ○ 支援員会議・意見交換会 ※ 事業期間終了後 ○ 市内自治会長を対象に、雪かき支援の現状説明会を開催 前年実績値をもとに、自治会別の支援員数と支援希望者数を提示 支援員不足の現状を理解いただき、本事業への協力を呼びかけ ◆ 大町地区 共同募金大町分会会議（9月20日、参加者30名） ◆ 平地区 平地区敬老会説明会（7月10日、参加者20名） ◆ 常盤地区 昨年から引き続きの区長のため、資料送付のみ ◆ 社地区 日赤奉仕団、男女共同参画合同研修会（7月29日、参加者40名） ◆ 全自治区 連合自治会総会（2月24日 次年度に向けての広報啓発）
高齢期安心生活支援業務	○ 高齢期を豊かで自分らしく生活するため、「知って得する社協の講座」を開催 ◆ 場所 大町市総合福祉センター大会議室 ◆ 内容 2月21日 「相続・遺言」 参加者20人 3月1日 「転倒予防運動」 参加者40人 3月9日 「成年後見制度・消費者被害」 参加者25人 3月22日 「生前整理講座」 参加者44人 3月29日 「自分らしく生きるために」 参加者26人



知って得する社協の講座
（3/22 生前整理講座）

【評価と展望】

- 美麻診療所患者輸送では、人口減少とともに患者が減少傾向にあるが、乗降時は補助しながら安全に送迎することができた。
- 雪かき支援員派遣業務は、事前に説明会を実施した結果、数地区から問い合わせがあり、「雪かきは地区で行うべき」との意見もいただき、「お互いさまの支え合い」の啓発につながった。また事業終了後の支援員会議において、「感謝の言葉が励みになった」との前向きな意見をいただいた。一方、利用者の入院や施設入所等生活状況の変化の把握や雪かき支援員の確保等、引き続き行政と連携し、雪かき支援体制の構築を図りたい。
- 高齢期安心生活支援業務は、回数を1回増やし、新たに、体を動かし転倒予防から高齢期を豊かに過ごす講座を開催したところ、多くの新たな参加者につながった。
- 定番の相続や遺言、成年後見制度等、より多くの知識を習得し、これからの活動に活かしたいという前向きな参加者が多かったことから、新規の体験型メニューなど加え、継続して市民の生きがいと介護予防につながる講座を開催していきたい。

3. 高齢者福祉活動の推進

改正介護保険制度に対応し、高齢者が生きがいを持って充実した在宅生活を継続できるよう、また、利用者、介護者の多様なニーズに応えるべく、柔軟なサービス提供に努めました。

(1) 居宅介護支援事業

「利用者本位」と「自立支援」を基本に、利用者の状況に応じた迅速な対応に心がけ、より質の高いケアマネジメントに努めながら、居宅介護支援サービスを提供しました。

項 目	事業結果・内容
事業実績	<ul style="list-style-type: none"> ○ 開設日数 244日（年末年始・祝日を除く月～金曜日） ○ 年度末登録者数 73人 ○ 延べ利用者数 800人（平均66.6人／月）
居宅介護サービス計画の作成・モニタリング	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本人と家族の意向を聞き、介護保険サービス計画書を作成・給付管理を行う（介護予防サービス計画書作成・給付管理） ○ 毎月1回以上自宅に訪問してモニタリングを実施 ○ 入院時や医療系のサービスを利用する際には医師や医療従事者と連携を図る
介護全般の相談・手続きの代行	<ul style="list-style-type: none"> ○ 介護全般に関わる相談を随時受付 ○ 介護認定の更新、その他各種手続きを代行
ケアプラン指導研修等の参加	<ul style="list-style-type: none"> ○ ケアプラン指導研修に参加 ◆ 認知症・難病の基礎知識、他職種連携研修、その他
移行対応	介護予防サービス利用者の総合事業への移行対応

● ケアプラン作成件数の推移

（単位：件）

年 度	H25	H26	H27	H28	H29
要 支 援	149	130	120	105	225
要 介 護	996	933	956	838	575
合 計	1,145	1063	1,076	943	800

いじめだよ 見てみぬふりも いじめだよ

（仁科台中学校1年 古屋理公さん）

平成29年度 福祉啓発標語 優秀作品

【評価と展望】

- 介護支援専門員として資質の向上を図り、ケアマネジメント業務充実に努めた。
- 総合事業への移行については意向を聞きながら包括を交え調整を行った。
- 収支の改善は困難な状況であったが、地域需要に対応した体制を整えていく。
- 独居や高齢者世帯等で家族支援が得られないケースもあり、関係機関と連携を強化して対応していく。
- 介護保険以外でも地域の実情に合わせた多様なサービスを提案していく。

(2) 訪問介護事業

介護・医療・福祉の職種の方と連携をとりながら、その人の意志を尊重し、住み慣れた地域での生活が継続できるよう支援を行いました。

項 目	事業結果・内容
事業実績	○ 営業日数 365日 ○ 年度末契約者数 125人 ○ 延べ訪問時間 18,113時間（平均1,509.4時間／月）
移行対応	○ 介護予防利用者、総合事業への移行は、3月末までにスムーズに対応できた
資質の向上	○ 介護技術向上のため、年間計画を作成し、定期的な研修を実施した

● 延べ訪問時間数の推移

（単位：時間）

年 度	H25	H26	H27	H28	H29
要 支 援	3,102	2,695	2,800	2,785	2,805
要 介 護	19,254	18,262	16,683	15,394	15,308
合 計	22,356	20,957	19,483	18,179	18,113

【評価と展望】

- 外部並びに内部講師による定期的な研修会を行い、介護資質の維持向上が図れた。
- 介護度が高くなると在宅から施設入所に流れる傾向の利用者数を確保するため、ケアマネジャーと積極的に連携を図り利用者の確保を行った。
- 家族や関係者からの情報と訪問記録との比較により、細やかなサービス提供に繋げるべくケアマネジャーへの情報提供や共有ができた。
- 見込まれる事業量に見合った職員確保の維持に努める。

(3) 訪問入浴介護事業

自宅での入浴を希望する利用者に、安心して心地よいサービスを提供しました。また、介護相談などを通して介護者の負担軽減につながるよう支援を行いました。

項 目	事業結果・内容
事業実績	○ 開設日数 256日（12/29～1/3を除く月～金曜日） ○ 平均契約者数 16.4人／週 3.28人／日 ○ 延べ訪問回数 789回（平均65.7回／月）
訪問入浴サービスの提供	○ 皮膚トラブルや体調の変化に迅速に対応 ○ ケアマネジャーに近況報告や空き状況等、密接に連絡や連携がとれた
サービスの質の向上	○ 訪問介護・訪問入浴部会の研修に参加
中山間地域への対応	○ 白馬村・小谷村に積極的にサービス提供 ◆延べ利用者数内訳：白馬・小谷 362人・大町ほか 427人

● 延べ利用者数の推移

(単位：人)

年 度	H25	H26	H27	H28	H29
延べ利用者数	494	596	571	763	789

【評価と展望】

- これまでのサービス提供・実績の積み重ねにより新規利用の受け入れにつながった。今後もケアマネジャーとの連携を強化していく。
- 体重測定ができることによりご利用者の健康管理が向上した。引き続き在宅で提供できるサービスを充実させるとともに、訪問看護との連携強化に努めたい。

(3) 通所介護事業

【1】 デイサービスセンターひなたぼっこ（認知症対応型デイサービス）

地域や家族とのつながりを深めながら、認知症の進行緩和と介護者支援を目的としたサービスの提案やサービスの提供に心がけ、在宅生活が継続できるよう支援に努めました。

項 目	事業結果・内容
事業実績	<ul style="list-style-type: none"> ○ 開設日数 359日（年末年始12/29～1/3を除く） ○ 年度末契約者数 25人（3月末現在）最大26人実績あり ○ 延べ利用者数 3,022人（平均251.8人／月、8.4人／日）
利用者ニーズに応じたサービスの提供	<ul style="list-style-type: none"> ○ 当日の臨時利用にも迅速に対応 ○ 送迎時間など家族の希望にできるだけ沿えるよう対応（法人保有車使用） ○ 医療的な体調管理を主治医、訪問看護師と連携し提供
自主事業の実施	<ul style="list-style-type: none"> ○ 年末入浴サービスを実施（自費サービス：1,400円） ◆ 実施日：12月30日 利用者数：12人（昨年10人）
運営推進会議	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域との連携・運営の透明性の確保を目的とした会議を開催 ◆ 第1回 9月28日 6名出席 ◆ 第2回 2月23日（白塩町との鍋会と併せ開催） 大家さん、白塩町ボランティア、利用者、職員、ご家族 合計23名参加
介護者の支援	<ul style="list-style-type: none"> ○ 相談窓口を常設し、関係機関等との連携により、希望に応じた支援を提案・実施（行事への参加により、親しみあるサービスを目指す）
支援ボランティアの育成	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域交流事業の企画・運営と親睦 ◆ 7回実施 ボランティア13人、利用者56人、職員58人、ご家族2人、運営推進委員4人、大家さん1人 ◆ 職場体験学習の受入れ 第一中学校より女子2人受け入れ（2日間） ◆ 県外より1人（沖縄三線奏者 木屋さん） ○ デイサービスの紹介（運営推進会議資料としても使用）2回発行

● 延べ利用者数の推移

(単位：人)

年 度	H25	H26	H27	H28	H29
要 介 護	2,321	2,598	2,892	3,124	3,022

ボランティア みんなで紡ぐ 地域の輪

(仁科台中学校2年 那須野莉菜さん)

平成29年度 福祉啓発標語 優秀作品

【評価と展望】

- 家族からの相談等は送迎時からの対応に心がけ、必要に応じて電話連絡や時にはデイサービスの紹介を兼ねて来所及び行事へ参加をいただいた。
- ケアマネージャーや訪問看護事業者、あづみ病院認知症患者医療センターと協働し、利用者及びご家族支援に努め、安心して利用できるサービスを提供できた。
- ショートステイを併用される方や症状の進行により施設入所されるケースが増えた。今後、入居施設が新設されることから、重度の利用者の動向に注視し受け入れ調整を図りたい。
- 市内4地区からの利用者を受け入れているが、送迎車2台では希望された時間帯での送迎が困難となる日が増えた。法人保有車を使用し対応できた。
- 急を要する利用者の受け入れについて、定員を超えた場合の自費サービスを精査する。
- 職員（看護師・介護員）の成り手不足が今後の運営に影響を与えることが懸念される。育成を念頭に置いた専門職（特に看護師）の確保と配置が課題である。

【2】 デイサービスセンターこすもす

利用者、家族及び関係機関と連絡調整をはかりながら、心身機能の維持・向上のための機能訓練やレクリエーション活動を充実させるとともに、ニーズに応じた柔軟な利用調整に努め、通所サービス提供を行いました。

項 目	事業結果・内容
事業実績	<ul style="list-style-type: none"> ○ 開設日数 359日（年末年始を除く） ○ 年度末契約者数 74人（要介護54人、総合事業20人） ○ 延べ利用者数 5,756人（平均479.7人／月、16.0人／日）
移行対応	○ 旧サービス利用者の総合事業へ順次移行。3月末までに対象者については、スムーズに移行することができた
自主事業の実施	○ 年末入浴サービスを実施（12月29日 利用者4名）
職員の資質向上	<ul style="list-style-type: none"> ○ 救急救命講習会他研修会に参加 ○ 月例カンファレンスにより情報を共有
新規利用者の確保	○ 積極的な増加とはならなかったが、受け入れられる範囲で新規利用者の受け入れを行った
経費の節減	○ 職員全体で検討を行い、シーツ交換等の見直しを行った
設備整備の検討	○ 特殊浴槽の更新について、業者から設備の説明等を受けると共に、特殊浴槽の必要性について検討した

● 延べ利用者数の推移

（単位：人）

年 度	H25	H26	H27	H28	H29
要 支 援（事業対象者）	2,637	2,449	1,740	1,834	1,607
要 介 護	4,292	3,942	4,124	4,024	4,149
合 計	6,929	6,391	5,864	5,858	5,756

【評価と展望】

- 利用者の介護度等は常に変動のあるものとして、その時々利用者ニーズに合ったサービスを提供できるよう利用者、介護者及び関係機関との連携、サービス内容の検討を考えて行く。
- 経費の節減に努めるとともに、職員の業務内容の見直し、新規利用者の受け入れを行い、介護報酬の減額を補えるようにしていきたい。

【3】 デイサービスセンターみさか

利用者と介護者の希望に応じたサービス提供に努めました。

項 目	事 業 結 果 ・ 内 容
事業実績	○ 開設日数 256日（年末年始を除く月～金曜日） ○ 年度末契約者数 40人（要介護26人、総合事業14人） ○ 延べ利用者数 3,822人（平均318.5人／月、14.9日）
日常生活支援事業の取り組み	○市八坂支所民生係及びケアマネ等と連携を密にし、速やかな移行と新規利用者の受け入れに努めた。
新規利用者の確保	○ 新規利用者13人（八坂地区9人 大町地区4人）
自主事業の実施	○ 年末入浴サービスを実施（12月29日 利用者10人）
芸能ボランティア等の受入れ	○ 四季を通じボランティア等の受入れ・花見、外出による現地見学の実施 ◆読み聞かせ 1回/月、 ◆歌謡・踊り・大正琴等 11回/年

● 延べ利用者数の推移

（単位：人）

年 度	H25	H26	H27	H28	H29
要 支 援	570	836	718	740	695
要 介 護	3,024	3,526	3,724	3,451	3,127
合 計	3,594	4,362	4,442	4,191	3,822

【評価と展望】

○利用回数が多く介護度の高い方が、施設入所・入院ショート利用に移行等により延べ利用者数が減少（対前年比91％）また、要支援、総合事業を含め、週1回利用者が多いことも減少の要因である。

○新規利用者の確保に努めてきたが、収入は減少の一途にある。（新規利用者確保13人）

○利用者アンケートを実施し、ほぼ良好の結果である。（回収率85％）

○地域内において一人暮らし生活の利用者が増加傾向にあるため、在宅で安心して暮らせるよう支援に努めていく。

【4】 デイサービスセンターみあさ

心身機能の維持・向上のため個別に機能訓練などを積極的に取り入れ維持向上に努めました。

項 目	事業結果・内容
事業実績	○ 開設日数 256日（年末年始・祝日を除く月～金曜日） ○ 年度末契約者数 45人（要介護 32人、総合事業13人） ○ 延べ利用者数 4,577人（平均381.4人／月、17.9人／日）
利用者ニーズに応じたサービスの提供	○通院や家族の都合による利用変更などに柔軟に対応
自主事業の実施	○ 年末入浴サービスを実施（12月30日 利用者16人）
入浴設備の活用	○ 利用者の身体状態に合わせた安心・安全な特浴とリハビリ浴を活用 ◆ 特浴利用者数 平均13.5人／月
新規利用者の確保	○ 新規利用者 7人

● 延べ利用者数の推移

(単位:人)

年 度	H25	H26	H27	H28	H29
要 支 援	943	909	723	598	807
要 介 護	3,043	2,889	3,433	3,558	3,770
合 計	3,986	3,798	4,156	4,156	4,577

【評価と展望】

- 地区内の医療機関や関係機関との連携により新規利用者の確保及び安定稼働に努めた。
- 家族・利用者のニーズに迅速に対応することで信頼関係が深まり利用回数の増加に繋がった。
- 個別に機能訓練など実施し心身機能の維持・向上を図りたい。
- 特殊浴槽利用者が増加傾向である。今後の設備の整備について検討する。

3. 障がい者福祉の推進

個々の能力を活かし、その人らしい豊かな地域生活が送れるように多様な福祉サービスを提供しました。また、地域で支える住民に障がいへの理解を促す啓発活動の推進に努めました。

(1) 障がい理解促進事業

講座の開催や講師派遣、交流をとおして障がい福祉への理解の促進に努めました。

項 目	実施内容・結果
障がい者理解促進講座	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「お出かけボランティア養成講座」を開講 <ul style="list-style-type: none"> ◆ 第1回 8月18日 障がいの基礎知識【講師：障害児童係 桑澤】 車いす体験【講師：地域福祉係 菅沢】 ◆ 第2回 9月1日 信州あいサポーター養成講座【講師：信州あいサポート推進員 福岡氏】 アイマスク、ガイドヘルプ体験【講師：地域福祉係 田辺】 ◆ 実習体験 9/11～15 ひまわりの家 1名

【評価と展望】

- 昨年に引き続き、障がい理解促進講座を実施。昨年に比べ受講者が少なく、周知方法や講座の内容について、さらなる検討が必要。
- 昨年受講された方より、本年も希望の旅への参加相談があったことから、本講座は一定の成果が挙げられていると考える。

伝わるよ 障害あっても 思いやり 手を取りあって 優しさの輪

(大町岳陽高等学校3年 吉田和希さん)

平成29年度 福祉啓発標語 優秀作品

(2) 障がい者余暇活動支援事業

イベントの企画・運営、情報発信により、障がい者の社会参加の促進に努めました。

項 目	実施内容・結果
希望の旅	<ul style="list-style-type: none"> ○ リフト付き大型バス、中型バスの2台運行で企画・募集し、実施 ◆ 実施日 9月29日 ◆ 行き先 野尻湖方面・野尻湖遊覧船・黒姫童話館 ◆ 参加者内訳 参加者41人（内訳：身体12人、知的6人、精神4人、付添家族7人、支援ボランティア6人、職員6人）
ピアカウンセリング講座	<ul style="list-style-type: none"> ○ ピアカウンセリング集中講座 3月22日（7人）大田市総合福祉センター
いっぽの会	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「クリスマス会」12月15日（9人） ○ その他11企画 延参加人数70人 ◆ 4/28（8人）、5/26（4人）、6/23（4人）、7/28（7人） 8/25（6人）、9/22（5人）、10/27（8人）、11/24（6人）、1/26（10人）、2/23（6人）、3/30（6人）

● 障がい児・者希望の旅事業参加者数の推移

年 度	H25	H26	H27	H28	H29
参加者数（人）	42	48	44	44	41

【評価と展望】

- 障がい理解促進講座開催の結果、昨年度受講生も含め、多くの講座受講生がボランティアとして参加し、当事者の余暇活動に加え、障がいへの理解促進につながってきていると感じる。
- いっぽの会は、当事者が気軽に自分の気持ちを話せる場として定着している。今年度は新規の方の参加もあり、当事者会に関心をもってください事業所（就労継続支援事業所や就労移行支援事業所）も増えた。今後は新規の方が継続して参加できるように話しやすい雰囲気づくりやイベント等も行っていきたいと考えている。



希望の旅（9/29 黒姫童話館）

(3) 障がい者就業支援事業

地域で安心して働くことができるよう障がい者と事業所等、双方に情報提供を行い、就業に必要な訓練・実習など支援し、社会参加の促進に努めました。

項 目	実施内容・結果
就労に向けた支援 (職業準備訓練、現場実習機会の提供)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 支援対象障がい者数 265人 ○ 障がい者に対する相談・支援件数 1,206件 ○ 職業準備訓練及び職業実習のあっせん数 20件 ○ 就職件数 21件
雇用についての企業への働きかけ	<ul style="list-style-type: none"> ○ 障がい者短期トレーニング促進事業により、障がい者の短期職場実習(1ヵ月月以内)に係る経費を実習者に支給 ◆ 対象者：障害者就業・生活支援センター登録者 ◆ 利用者：13人(延べ74日実施)
関係機関との連携	<ul style="list-style-type: none"> ○ 大町公共職業安定所雇用指導官と連携し、企業訪問を実施
職場定着支援	<ul style="list-style-type: none"> ○ 障がいを開示している人の就労先へ定期訪問し、事業所の困りごとと在職者の困りごとについて調整 ○ 企業への訪問以外では、就職後の面談、電話・メール等での相談支援
特性を踏まえた雇用管理についての事業所に対する助言	<ul style="list-style-type: none"> ○ 電話、訪問、支援会議等により、知的障がい者の職場実習後の雇用検討、トライアル雇用期間中の精神障がい者の就労状況調査、発達障がい者の雇い入れに向けた調整、高次脳機能障がい者の職場復帰に向けた調整等 ◆ 相談・支援実施事業所：28事業所

● 大北圏域の障がい者の就業実績の推移

年 度	H25	H26	H27	H28	H29
就職件数(件)	17	16	36	18	21

【評価と展望】

- 障がいを開示せずに就労している方については、本人と事業所の間でトラブルが生じても支援者が直接介入できないことから、働き続けることが難しいケースが多い。
- 一般就労を希望していても生活習慣や就業に向けた準備が整っていないために福祉的就労に繋げるケースが多い。

(4) 地域生活支援事業

保健・医療・地域の支え合い活動などと連携し、相談支援サービスならびに、障害福祉サービス利用にあたっては利用計画を作成しました。

【1】障害福祉サービス計画支援事業(スクラム・ネット)

障害福祉サービスの計画的な利用について関係機関と連携しながら相談・計画支援にあたりました。

項 目	実施内容・結果
事業実績	<ul style="list-style-type: none"> ○ 開設日数 244日(年末年始・祝日を除く月～金曜日) ○ 年度末登録者数 70人 ○ 延べ利用者数 109人(平均9.1人/月)
障害福祉サービス計画書の作成	<ul style="list-style-type: none"> ○ 利用者等の心身状態・環境等を把握し、在宅生活が継続できるサービス利用計画を作成 ○ 計画作成者には、定期的なアセスメント・モニタリングを実施

項 目	実施内容・結果
関係機関等との連携強化	○ サービス事業者や関係機関との連携による利用者への支援体制の強化 ◆ 関係者会議、事業所見学同行の実施 ◆ 自立支援協議会・サービス相談支援部会への参加
専門職の資質・技術の向上	○ 研修等への参加による情報・知識の習得、ケアマネジメント技術の向上

● 計画作成・モニタリング件数の推移

年 度	H25	H26	H27	H28	H29
計画作成件数（件）	18	29	30	33	57
モニタリング件数（件）	48	57	91	76	116

【評価と展望】

○ 本人の状態に合わせたサービス計画内容の検証・修正を心がけた結果、件数増加となった。次年度も引き続き、取り組んでいく。

【2】大北圏域障害者相談支援事業（スクラム・ネット）

障がい者や家族等からの相談に応じ、必要となる情報の提供や援助を行いました。

項 目	実施内容・結果
事業実績	○ 開設日数 244日（年末年始・祝日を除く月～金曜日） ○ 年度末登録者数 2,762人 ○ 延べ利用者数 5,143人（平均428.6人／月） ○ 障がい児相談支援勉強会 25人（3月22日 大町市総合福祉センター）
管内町村へ出張相談	○ ひきこもり等相談会を実施 ◆ 池田町3回、松川村3回、白馬村3回、小谷村3回 ◆ 延べ相談件数：10人
ピアカウンセラー・ペアレントメンターによる相談支援	○ 障がいのある相談員や障がいのある子どもを育てている親が、対等な立場で話を聞き、その経験を生かした相談支援を実施
発達障がい者の当事者会の立ち上げ	発達障がいの診断を受けている、おおむね高校卒業以上の方の当事者会を試行的に開催した。1月13日 大町市総合福祉センター 当事者7人 支援者5人
一般相談支援事業	○ 精神病院、障害者支援施設等から地域へ戻る希望のある方に対して地域の情報提供や各種体験を実施して安心して生活ができるよう支援 ○ 地域移行・定着支援研修を受講
当事者団体等支援	○ 自立支援協議会当事者部会の活動の中で、困りごとに対して助言を実施 ○ 団体からの要望により勉強会へ講師を派遣 オルカの輪
自立支援協議会の運営	○ 全体会と各専門部会を組織し、共通の目的に向けた情報の共有と関係者によるネットワークを構築 ○ 勉強会を開催 3月10日 85名 大町合同庁舎 講堂

● 実績数値の推移

年 度	H25	H26	H27	H28	H29
延べ利用者数（人）	6,423	5,457	5,327	4,770	5,143

【評価と展望】

- 県を含めて、地域生活支援拠点整備及び基幹相談支援センターの来年度実施に向けて取り組み、成果として現れた。今後は関係機関との連携、当事者のリストアップ等課題に取り組む。
- 一般相談支援事業が新規事業として始まる。24 時間体制、緊急時訪問等に対応する。

【3】発達障がいサポート・マネージャー事業

発達障がい者を直接支援している方々に、より専門的な支援を実施していただけるようアイデア提供や専門家への橋渡しを行いました。

項 目	実施内容・結果
事業実績	<ul style="list-style-type: none"> ○ 開設日数 244日（年末年始・祝日を除く月～金曜日） ○ 年度末登録者数 79人（単年度登録者数） ○ 延べ利用者数 448人（平均37.3人／月） ○ 個別支援以外の会議等への出席など 延べ 245回 （平均20.4回／月）
個別のケースにかかわる活動	○ 相談・連携・打ち合わせ・支援会議・医療紹介・同行受診・電話相談などを、本人やご家族、支援者に対して実施
個別支援以外の活動	○ 研修会・連絡会議・講師・サポマネワーキング（ひきこもり）・自立支援協議会（県・圏域）・自立支援協議会事務局・池田町子育て支援ネットワーク委員・白馬村社会福祉推進委員会・長野県発達障がい者支援連携協議会・大北圏域発達障がい診療地域連携病院連絡会・なかまとSSTのSVに出席し、当事者の会（いっぽの会、発達障がい者当事者ミーティング）大北地区障がい者運動会などイベントの開催に協力
学校巡回相談	○ 圏域内の中学校8校、高等学校3校圏域外3校（圏域出身者対象）へ年間3回ずつ巡回訪問し、環境調整や対応方法など情報交換や助言をした。進路について等は移行支援や、就業支援ワーカーなどとの連携を実施（個別支援は別途対応）

● 実績数値の推移

年 度	H25	H26	H27	H28	H29
個別の相談 延べ利用者（人）		308人	311人	368人	448人
単年度登録者数（人）		72人	73人	69人	79人
個別以外の支援 開催延べ数（回）		205回	224回	236回	245回

【評価と展望】

- サポートマネージャー配置から4年目。どんなことを相談し、どうやって利用したらいいのか周りから理解されるようになってきた。
- 障害者差別解消法の施行とともに、学校現場などから連携を求められるケースも増え、進路なども、外部と連携して相談していくことが多くなってきている。
- 自ら発達障がいを疑い、支援を求めてくる成人期以降のケースが増え、ひきこもりのケースも含め、青年期成人期の支援体制作りが今後、必要となる。今年度は試みとして当事者会を開催。次年度につなげていきたい。
- ひきこもり等に携わっている職員が増えているが、ケースも手法も多様。相談は長期化するが本人の変化は乏しいことから、関係者の連携が必要と感じる。今年度も昨年に引き続き連携会議を1回開催。来年度につなげていきたい。

【4】 障害者地域活動支援センター事業（ハーモニー・ルーム）

講座を通して仲間づくりをし、在宅生活の意欲向上につながる講座作りに努めました。

項 目	実施内容・結果
事業実績	<ul style="list-style-type: none"> ○ 開設日数 245日（年末年始・祝日を除く月～金曜日） ○ 契約者数 34人 ○ 延べ利用者数 1,478人（平均123.2人／月、6.0人／日）
講座型事業の実施	<ul style="list-style-type: none"> ○ 利用者の希望を取り入れ、利用者同士の交流も含め、楽しく活動できる講座を企画（年間19講座）実施 絵画、ちぎり絵、アレンジメント・フラワー、絵手紙、カーレット・ボッチャ、大人のぬり絵、機能訓練、童謡唱歌、陶芸、自由創作、はた織、紙粘土料理、草木染、カラオケ、外出（美術館、映画鑑賞、公園等）、押し花、革細工、トールペイント
健康づくりのための機能訓練・外出活動等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 上下肢筋力低下予防等のための機能訓練講座（1回/月） ○ カーレット、ボッチャ（毎月どちらか1回） ○ 外出講座（美術館、バラ園、映画鑑賞など）
地域との結びつきを重視したサービスの提供	<ul style="list-style-type: none"> ○ 社協エントランスホールでハーモニー展を開催（活動の紹介） ○ 大町市文化祭に出展 ○ 県障がい者展に出品、見学

● 実績数値の推移

年 度	H25	H26	H27	H28	H29
延べ利用者数（人）	1,633	1,750	1,695	1,294	1,478

【評価と展望】

- 参加者の少ない講座は2ヶ月に1回にし、自由創作の講座を取り入れ、個々に興味のある作品作りに取り組める講座を増やした。
- 多機能型事業所との合同活動を実施し、相互理解を深めた。
- 参加講座にバラつきがあるため、更に利用者のニーズにそった講座の検討が必要である。
- 利用者の高齢化や体調の変化により、利用減少が傾向にある。新規利用者の開拓に努める。

【5】 障がい者等生活支援事業

① 移動支援サービス

通院や余暇活動等、希望に応じた支援を実施しました。

項 目	実施内容・結果
事業実績	○ 開設日数 365日 ○ 平均契約者数 4人/月 ○ 延べ利用時間数 182時間（平均15.2時間/月）
外出時の支援	○ 通院やスポーツクラブ参加等への外出介助を実施

● 実績数値の推移

年 度	H25	H26	H27	H28	H29
延べ利用時間数（時間）	210	121	71	94	182

【評価と展望】

- 通院介助の利用が多く、所要時間や支援頻度が定まらない特徴のサービス。可能な限りニーズに応じた提供に努めたことで、利用時間数が伸びた。
○ 今後とも変則的なニーズに対応できるよう体制整備を図りたい

② 日中一時支援事業

障がい児や家族の日中活動を支援しました。

項 目	実施内容・結果
事業実績	○ 実施日数 49日 ※ 平日の夕方、土曜日の半日、学校長期休業中の利用が主体 ○ 登録者数 3人 ○ 延べ利用時間数 161時間（平均13.4時間/月） ○ 登録サポーター 2人
1対1対応の支援	○ 利用者1人にサポーター1人の体制で支援

● 実績数値の推移

年 度	H25	H26	H27	H28	H29
延べ利用時間数（時間）	515	603	467	325	161

【評価と展望】

- 支援員1名の退職に伴い4月末をもって他事業所へのサービス移行を行った利用者1名。
○ グループホームへの入所が決定し、3月末を以ってサービス終了となった利用者1名。
○ 社会資源の整備とともにニーズも変化し、30年度利用者は1名となる見通し。

あなたもね 私も笑顔の ボランティア

（常盤 磯野時子さん）

平成29年度 福祉啓発標語 優秀作品

③ いこいの家事業

精神障がい者の社会参加の促進に向け、当事者と家族が安心して集い、交流し、仲間づくりや相談ごとができる活動を提供しました。

項 目	実施内容・結果
事業実績	○ 開設日数 42日（年末年始・祝日を除く月曜日） ○ 延べ利用者数 142人（平均11.8／月、3.4人／日）
利用者が安心して活動できる場所と機会の提供	○ 利用者の希望に応じ、室内野外の軽スポーツ、レクリエーションゲーム、季節を楽しむ行事や調理、七夕コンサート、温泉入浴等多彩な活動を提供 ○ 保健センターと連携しながら利用者やその家族の相談支援

● 実績数値の推移

年 度	H24	H25	H26	H27	H28	H29
延べ利用者数（人）	213	233	174	155	152	142

● 主な活動実績

野外レクリエーション	お花見	農具川散策	温泉入浴	グランドゴルフ
	流しソーメン	マレットゴルフ	お葉付銀杏探し	
室内レクリエーション	調理実習	誕生会	七夕コンサート	クリスマス会
	カラオケ	初釜お茶会	卓球	カーレット
	風船バレー	パネルシアター	ボッチャゲーム	輪投げゲーム
	トランプ	エルクupp	スマイルボーリング	羽根っ子ゲーム
	DVD鑑賞	お題ゲーム	紙芝居	さよなら会

【評価】

- 新規利用に向けての見学は数件あったが、個々の適性から利用には至らなかった。
- 利用者は固定化しているが、参加を楽しみにしている。
- 健康面を考え運動不足を補うための屋内軽運動の実施を増やした。

（５）障害福祉サービス事業

個々の環境に応じた自立した在宅生活に求められる能力が引き出せるよう、保健、医療、地域の支え合い活動等と連携しながら、各種障がい福祉サービスを提供しました。

【１】 障がい者居宅介護事業

住み慣れた自宅で自立した生活が送れるようにサービスを提供しました。

項 目	実施内容・結果
事業実績	○ 開設日数 365日 ○ 平均契約者数 38人／月 ○ 延べ訪問時間数 5,810時間（平均484.2時間／月）
関係機関との連携	○ 利用者や家族、計画相談員、市福祉課等と連携し、支援方向を検討
自立に向けた支援	○ 日々の関わりの中で残存能力の見極め、関わりを深めながら支援

● 実績数値の推移

年 度	H25	H26	H27	H28	H29
延べ訪問時間数（時間）	6,581	6,751	6,964	6,470	5,810

【評価と展望】

- 高齢化による介護保険への移行や介護保険と併用する利用者の増加により、訪問時間は減少傾向であったが、馴染みのヘルパーを派遣することで、安心と信頼関係の構築が図れた。
- 計画相談員と密な連携調整を図りながら新規受け入れは積極的に行う。提供時間帯の要望には、可能な限りの調整を行い対応していく。

【2】多機能型障害福祉サービス事業

生活介護・就労支援を提供し、心身の維持と発達の可能性を図れる実践に努めました。

項 目	実施内容・結果
事業実績	<ul style="list-style-type: none"> ○ 開設日数 244日（年末年始・祝日を除く月～金曜日） ○ 年度末登録者数 58人（生活介護20人、就労支援38人） ○ 延べ利用者数 9,381人（平均781.7人／月、38.4人／日） <ul style="list-style-type: none"> ◆ ひまわりの家 6,422人（平均535.2人／月、26.3人／日） ◆ すずらん 1,789人（平均149.1人／月、7.3人／日） ◆ たんぽぽ 1,170人（平均97.5人／月、4.8人／日）
生産活動の提供と工賃の向上	<ul style="list-style-type: none"> ○（新規）施設外就労の受託（農園作業、市霊園清掃） ○自主製品の新品開発
日中活動の支援・社会参加	○ 年間、多彩な行事を企画運営。社会参加と地域への障がいの啓発活動に取り組んだ。プール活動の継続、蕎麦打ちなど体験型活動、新規企画として、こすもす交流会、ハーモニー・ルームとの合同活動を実施した。
利用者の健康増進	○ 利用者の定期健康診断を実施（受診者35人） 改善を要す方には、家族や保健師と連携が図れた。
地域交流の促進	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自主製品の販売会を開催 <ul style="list-style-type: none"> ◆ 定期販売会 毎月第3木曜日（大北地域6事業所合同） 12月から会場を移転し、住民との交流を促進した。 ◆ 地域イベント販売会への出店（28会場/年） ◆ 焼き芋販売（11月～3月 毎週水曜日） ○ 喫茶すまいる営業（火・水・木・金曜日/週10:00～15:00） ○ セタコンサートを開催（いこいの家事業と合同で開催）

● 延べ利用者数の推移

（単位：人）

年 度	H25	H26	H27	H28	H29
就労継続支援B型(人)	3,946	4,496	4,703	5,101	5,608
生活介護（人）	4,960	3,610	3,546	3,795	3,773
合計（人）	8,906	8,106	8,249	8,896	9,381

● 利用区分別年度末契約者数

（単位：人）

	生活介護（障害支援区分）						就労継続 支援B型	合 計
	1	2	3	4	5	6		
ひまわりの家	0	3	2	5	1	0	24	35
たんぽぽ	0	0	0	1	4	4	—	9
すずらん	—	—	—	—	—	—	14	14
合 計	0	3	2	6	5	4	38	58

【評価と展望】

- 新規利用（就労6人）、障がい者雇用枠による就職による終了1人。利用者増となった。
- 新規受注作業の開拓として施設外就労の受託と新規受注作業の開拓で、1人当たりの月額工賃を向上させることができた。次年度は報酬改定により、利用者増に伴う平均工賃の減額がないよう、更に工賃向上に努めなければならない。
- 日中活動は社会参加と啓発、様々な体験から生活の幅を広げることを目的に、引き続き多彩な活動を企画して行く。

4. 子育て支援活動の推進

安心して子どもを産み育てるためには、子どもの成長に応じた支援の提供と継続的な支援体制が必要です。現在市内にはどのような子育てに関する課題があり、どのような支援体制が望まれているのか、市内子育て支援団体との連携を深めることに努めました。

（1）子育て応援ネットワーク事業

子育て支援関係者との相互連携により、課題や資源の情報共有の場づくりに努めました。

項 目	実施内容・結果
子育て支援関係者ネットワークへの参加	<p>◆子どもの居場所づくり意見交換会 大町市子育て支援課主催による、子育て支援団体及び関係団体を交えた、子ども食堂開催に向けた意見交換会への参加</p> <p>○開催日 6月24日 ○会 場 大町市総合福祉センター ○参加者 NPO法人 キッズウィル/NPO法人 北アルプスの風 不登校児の会ひだまりの会/個人参加者</p> <p>◆信州こどもカフェ北アルプス地域プラットフォーム準備会（全2回） 長野県が進める信州型の子どもの居場所支援について、大北地域での協議の場を設け、地域の特性に応じた対応を行う場に参加</p> <p>○開催日 9月28日 / 11月6日 ○会 場 大町合同庁舎 ○主 催 長野県・NPO法人みらい基金 ○参加者 大北地域子供関係担当課/大北地域市町村社協担当者 大町商工会議所/NPO法人みとろクリエイト NPO法人ぐるったネットワーク/あおぞら法律事務所 大町市子育て支援課主催意見交換会参加団体</p> <p>◆「北アルプス地域子ども応援プラットフォーム」運営委員会(全2回)</p> <p>○開催日 1月12日 / 3月16日 ○会 場 大町合同庁舎 ○運営委員 (大町市)・あおぞら法律事務所 ・市社協 ・NPO法人ぐるったネットワーク ・NPO法人みとろクリエイト (白馬村)・NPO法人白馬総合型地域スポーツクラブ (池田町)・実家の茶の間 (その他)・大北地区主任児童委員連絡会</p>
先進地視察	<p>子どもの居場所づくりについて、イメージを共有するため大北ブロック社協に声掛けし、先進地視察を実施</p> <p>○実施日 3月20日 ○視察先 松本市並柳団地「なみカフェ」 ○内 容 運営開始から2年が経過した「なみカフェ」（子ども食堂）を視察</p>

【評価と展望】

- 様々な機関が、子育て支援に対しての協議の場を設けることがスタートした。
- 子どもや高齢者など分野にとらわれず、地域づくりという考え方で、各専門分野間のネットワークを形成することを念頭に協議の場に参加していく。



並柳団地「なみカフェ」視察
(3/20 松本市ロータリークラブ協力
にて、たこ焼きパーティー)

(2) 育児支援ヘルパー派遣事業（訪問介護事業所）

産前産後の心身不調等で支援を必要とする家庭に、サービス提供を行います。

項 目	実施結果・内容
育児支援ヘルパー派遣	<ul style="list-style-type: none"> ○開設日数 359日（年末年始除く月～日曜日） ○実績なし

【評価と展望】

- 出産後の必要に応じた支援の要望はあったが、家族の支援があり依頼には至らなかった
- 保健師と必要なサービスの調整を図りながら妊産婦の希望に応じ、心身状況を考慮しつつ産前産後の不安が少しでも軽減できるように関わりを持っていく。

(3) 療育支援事業（スクラム・ネット）

障がい児及び障がい傾向のある児童に早期発見と療育支援を行うことで、穏やかな生活が送れるよう助言・指導・相談支援を行いました。

項 目	実施内容・結果
事業実績	<ul style="list-style-type: none"> ○ 開設日数 244日（年末年始・祝日を除く月～金曜日） ○ 年度末登録者数 368人 ○ 延べ利用者数 2,549人（平均 212.4人/月）
障がい児等療育支援事業	<ul style="list-style-type: none"> ○ 訪問療育等支援事業 <ul style="list-style-type: none"> ◆ 保護者に対する相談・指導（470回実施） 巡回相談、親の会（オルカの輪・よつばの会・こぶしの会 等） ペアレント・トレーニング、ペアレント・メンター相談会 基本相談（来所相談・電話相談）、同行支援 ○ 在宅外来療育等支援事業 <ul style="list-style-type: none"> ◆ 児に対する相談・指導（228回実施） SST指導、集団療育、基本相談（来所相談・電話相談）、同行支援

項 目	実施内容・結果
障がい児等療育支援事業	○ 施設支援一般指導事業 ◆ 関係機関の職員に対する相談・指導（８７３件実施） 巡回相談及び来所相談
	○ 市町村発達障がい者支援体制強化事業 ◆ 圏域自立支援協議会事務局、普及啓発研修会、市町村発達支援事業への協力（フォローアップ教室、５歳児相談、就学相談 等）
児童発達支援巡回相談業務	○ 大町市及び白馬村の保育園・幼稚園・小学校・中学校における、巡回訪問による相談及び指導（２２５回実施）

● 実績数値の推移

年 度	H25	H26	H27	H28	H29
訪問療育等支援事業（人）	506	456	739	511	586
在宅外来療育等事業（人）	498	1,040	669	458	430
施設支援一般指導事業（人）	972	972	1,284	1,051	1,761

【評価と展望】

- 訪問療育等支援事業：発達障がいについての情報がメディア等で増えたことにより、相談件数がやや増加している。要支援度の評価を行い、適切な支援に結びつけていきたい。
- 在宅外来療育等事業：幼児期～学童期前半の件数は本人への直接支援から施設支援者への間接支援へと切り替わることで減少しているが、学童期後半～青年期前半にある本人からの相談が増えている。内容は、自己覚知や進路相談が中心。関係機関との役割分担を明確にして対応していきたい。
- 施設支援一般指導事業：ペアレント・トレーニングトレーナー養成研修、保育士の対応力向上研修を実施したことにより、支援者の資質向上を図った。
心理検査の事前情報収集や事後フォローを行うことで、PDCA（計画⇒実行⇒評価・検証⇒改善・再企画）サイクルの確立につながる事例が増えている。
- 市町村発達障がい者支援体制強化事業：教育委員会と子育て関連分野の連携強化等、各市町村で機構改革等を行い、支援体制の充実につなげることができた。



北アルプス地域子ども応援プラットフォームキックオフフォーラム
（12/16 大町合同庁舎）

5. 経済的支援活動の推進

不安定な収入などにより経済的に困っている人が生活意欲を取り戻せるよう、一時的な資金の貸付と生活相談や就労相談を行いました。

また、火災や自然災害等で被災した世帯への当面の生活確保に必要な支援体制を整え、経済的支援活動の推進に努めました。

(1) 生活困窮者等自立支援事業

経済的に困っている人からの相談に応じ、継続的な生活支援や就労支援等を行い、関係機関と連携しながら経済的自立・社会的自立の促進を図りました。

(長野県社会福祉協議会が大田市総合福祉センター内で実施)

項 目	実施内容・結果
自立相談支援事業	<ul style="list-style-type: none"> ○ 開設日数 244日(年末年始・祝日を除く月～金曜日) ○ 新規相談者数 64人 ○ 自立支援プラン作成人数 30人 ○ 自立支援調整会議を開催(毎月1回及び随時) <ul style="list-style-type: none"> ◆ 参集対象 県・市福祉事務所、ハローワーク、その他関係機関 ◆ 内 容 自立支援プランの適否の協議、プラン終結評価等 ○ 市町村福祉課及びまいさぼ出張所(各町村社協)との定期連絡会を開催 ○ 中信地域若者自立支援ネットワーク会議に出席 (6月27日)
大北地域連絡会との連携	<ul style="list-style-type: none"> ○ 大北地域連絡会に職員出席 <ul style="list-style-type: none"> ◆ 生活就労センター大北地域連絡会(7月25日) ◆ 担当者部会(1月25日)

● 実績数値の推移

年 度	H25	H26※	H27	H28	H29
新規相談者数(人)	—	105	106	95	64
自立支援プラン(人)	—	19	53	46	30

※H26はモデル事業

● 市町村別相談者数

(単位：人)

大田市	池田町	松川村	白馬村	小谷村	圏域外	合計
38	7	5	11	0	3	64

● 支援状況

(単位：人)

就労内定	10
他機関につなぐ	11
生活保護	9

※以前からの相談者も含む

【評価と展望】

- 複合的な課題を抱えた世帯からの相談が目立った。
- 市町村福祉課、税務課、地域包括、スクラム・ネット、町村まいさぼ出張所等と連携しながら対応することが増えてきている。

(2) 資金貸付事業（小口資金・生活福祉資金）

低所得世帯、障がい者世帯、高齢者世帯等に対し、経済的自立と生活意欲の助長を図るため、各種資金の貸付と生活相談を実施しました。

項 目	実施内容・結果
関係機関と連携した自立支援の推進	○ 貸付相談の内容に応じ、まいさぼ大町、行政やハローワーク等関係機関と連携
定期的な訪問による償還指導	○ 小口資金の借受人宅訪問や電話等による償還指導を実施 ○ 県社協と連携し、生活福祉資金の長期滞納者を訪問し、償還指導を実施
償還依頼通知発送	○ 小口資金貸付金の償還依頼通知を年2回発送
滞納整理、返済不能貸付金の欠損処分等	○ 小口資金欠損処分（1件） ○ 生活福祉資金長期滞納者の生活状況等を調査し、県社協に提出 ◆ 償還免除 （1件）

● 生活福祉資金貸付状況（平成29年度中）

資金種別		貸付申請		貸付決定		年度末貸付金残高		完済 件数
		件数	金額(円)	件数	金額(円)	件数	金額(円)	
小口資金（大町市社協）		4	310,000	4	310,000	15	1,005,756	9
生活福祉資金 （県社協）	総合支援資金					6	2,195,929	
	緊急小口資金					7	579,570	1
	教育支援資金					22	6,197,959	
	福祉資金					10	10,258,901	
	合 計					45	19,232,359	1

※年度末貸付金残高には利子・延滞利子を含む。

※完済件数には欠損処分及び延滞利子減免件数を含む ※離職者支援資金は総合支援資金を含む

● 貸付決定件数の推移

（単位：件）

年 度	H25	H26	H27	H28	H29
小口資金	4	8	13	9	4
生活福祉資金	4	4	5	1	0

● 年度末貸付金残高（元金）の推移

（単位：円）

年 度	H25	H26	H27	H28	H29
小口資金	1,338,500	1,251,500	1,200,204	1,023,400	550,900
生活福祉資金	15,705,578	15,951,128	15,020,880	14,297,782	13,119,156

【評価と展望】

- 昨年に比べると小口資金及び生活福祉資金の貸付は減少した。
- 長期滞納者への償還指導において、生活福祉資金では、訪問しても不在が多い。滞納が長期化する前の償還指導を実施していく。
- 県社協やまいさぼ大町等関係機関との連携を強化し、相談支援体制を整えていく。

(3) 災害見舞金等支給事業

被災した市民または遺族に対し、行政等と連携し援護物資や各種見舞金を支給しました。

項 目	実施結果・内容
被災者からの要請による援護物資（寝具一式）の支給	○ 被災者からの要請による寝具一式支給（1件・2組）
被災した会員への災害見舞金の支給	○ 被災状況に応じた災害見舞金の支給 ◆住宅火災 全焼 2件（20,000円） 一部焼失 1件（3,000円）
被災世帯への県共同募金会災害援護金の支給	○ 被災状況に応じた災害援護金の支給 ◆住宅火災 全焼 2件（20,000円）
交通・災害事故の遺児等の把握と県社協への見舞金申請・支給手続き	○ 交通・災害事故の遺児見舞金の支給 ◆件 数(対象遺児数) 1件（1人） ◆支給額 150,000円（1人当たり150,000円）

● 災害見舞金等支給実績の推移（大町市社協予算で支給したもののみ計上）

年 度	H25	H26	H27	H28	H29
寝具支給数（組）	0	5	4	0	2
見舞金支給数（世帯）	0	72	2	0	3
見舞金支給額（円）	0	230,000	13,000	0	23,000

【評価と展望】

- 県社協の交通・災害遺児見舞金は市子育て支援課及び市教育委員会に依頼し、事業内容の周知を図った。
- 行政と調整をしながら、迅速かつ適切に対応できるように努めた。



災害時連携研修会（11/18 社公民館）

Ⅳ 受け継がれるまちづくり

地域福祉活動を継続的に展開するため、住民の福祉意識の高揚と担い手の育成に努めました。

1. 地域における福祉意識の啓発

広報紙等による福祉情報の発信や社会福祉功労者の表彰、市民からの福祉啓発標語の募集を通して、地域福祉の意識啓発に努めました。

(1) 福祉情報発信事業

広報紙やホームページを活用し、地域福祉に関する情報発信に努めました。

項 目	実施内容・結果
広報紙「社協おおまち」の発行	○ 地域の住民活動に焦点をあてた記事を中心に掲載 ◆ 年6回（偶数月1日）発行 （全戸配布9500部 詳細別記）
ホームページの充実と活用	○ 各広報紙のほか、各種講座の募集やお知らせなど、タイムリーな記事を掲載

●広報紙「社協おおまち」の発行内容

号数	発行日	主な内容
187号	4月1日	東中原町 東水会（表紙）/H29 事業計画・予算/第3次地域福祉活動計画が完成/安心くらしのもちもちサービスの紹介
188号	6月1日	松崎まつば会ノルディックウィーキング（表紙）/大町市地域支え合い体制づくり協議会/地域交流のキーワード「うた」/雪かき支援事業
189号	8月1日	六九町 高橋商店（表紙）/H28 事業・決算報告/地域の雪かき支援について/小地域福祉ネットワーク研修会
190号	10月1日	楽喜クラブ、清水川上商店（表紙）/子ども服等リユース「コアラのぼっけ」/赤い羽根共同募金ほか
191号	12月1日	コミュニティカフェ大木葉（表紙）/子ども食堂（仮）/災害時連携研修会/大町市社会福祉大会のお知らせ
192号	2月1日	Smile サロン、健康まあじゃん講座（表紙）/信州こどもカフェ/赤い羽根共同募金大口募金者名簿/ボランティアリーダー研修会お知らせ

【評価と展望】

- 広報紙については、地域の活動やタイムリーな記事の掲載に努めた。
- 取材活動を通じ、自然と地域活動の把握につながり有効である。



(2) 地域福祉意識啓発事業

社会福祉功労者の表彰や福祉啓発標語の募集を通して、地域住民の福祉意識の啓発に努めた。

項 目	実施結果・内容
大町市社会福祉大会の開催	○開催日 平成30年2月3日 ○場 所 サン・アルプス大町 参加者 180 人 ○内 容 ・表彰 社会福祉功労者表彰 多額寄付者感謝表彰 輸送サービス車愛称入選者表彰 福祉啓発標語最優秀者表彰 ・アトラクション 長野大学手話サークルによる大町紹介手話ムービー完成試写会 ・講演 「災害サポーター養成講座」 防災笛配布 講師 中橋徹也氏 地域交流センター副代表理事
社会福祉功労者表彰	○ 大町市社会福祉大会において、社会福祉功労者の表彰と多額金品寄付者への感謝状贈呈を実施
福祉啓発標語の募集と入選作品の表彰	○ 市内各校及びボランティアニュースで啓発標語の募集を行い、選考委員会で入選作品を選考 ◆ 募集時期 10～12月 ◆ 募集部門 小学校低学年、小学校高学年、中学校、高等学校、一般 ◆ 応募総数 453点 ◆ 選考結果 入選作品37点（最優秀5、優秀11、佳作20、ほのぼの1） ○ 大町市社会福祉大会で最優秀賞の表彰を実施 ○ 入選作品をイベントや市総合福祉センター内で展示、ボランティアニュースや各種会議資料に掲載

● 表彰者数（個人 10 人、団体 5 団体）

区 分	表彰基準	表彰者数
表 彰	本会役員	1 人
	保護司	1 人
	社会福祉事業団体役員	7 人
	民生児童委員	1 人
	優良活動団体	3 団体
感謝状	多額金品寄附（団体）	2 団体

● 福祉啓発標語応募点数の推移

（単位：点）

年 度	H25	H26	H27	H28	H29
小学校低学年	153	125	95	116	49
小学校高学年	241	169	248	145	219
中 学 校	15	0	434	323	157
高 等 学 校	98	0	20	23	21
一 般	6	6	6	4	7
合 計	513	300	803	611	453

【評価と展望】

- 市社会福祉大会では、大町市紹介手話ムービー試写会の上映や災害サポーター養成講座を開催し、広く地域福祉の周知を図った。
- 今後も幅広い年代が福祉に関心を持っていただける取り組みとして継続していく。

2. 地域の担い手育成

地域住民や子どもたちへの福祉教育の推進と、地域の助け合い活動につなげるための担い手育成に努めました。

(1) 福祉教育推進事業

地域や小中高等学校での出前福祉体験講座と相談支援活動を行った。

項 目	実施結果・内容
福祉教育推進事業	<ul style="list-style-type: none"> ○ 社協事業を掲載した冊子を市内小中高校に配布し、事業説明と情報交換を実施 ○ 高齢者疑似体験、車いす体験、手話学習、点字学習、アイマスク体験等の出前講座を実施 <ul style="list-style-type: none"> ◆ 6小学校（延べ17回）、1中学校（延べ3回）、1高校（延べ12回） ○ 物づくり指導、レクレーション指導、ボランティアセンター業務紹介等の出前講座を実施 <ul style="list-style-type: none"> ◆ 延べ8回（小地域福祉ネットワーク等）

【評価と展望】

- 地域や各小中高等学校に出向き、福祉体験講座を実施することで、きめ細やかな要望への対応や、地域の方との対話や連携の場につながった。
- 今後も地域や学校への出前体験講座を通して、福祉教育の推進と啓発に努めていく。

(2) 生活支援体制整備推進事業（生活課題調査・研究、担い手養成）

項 目	実施結果・内容		
大町市地域支え合い体制づくり協議会への参加		開催日	内容
	第1回	4月20日	・委員の委嘱 ・役員選出 ・協議会ルールづくりほか
	第2回	6月8日	・地域支え合いづくりフォーラムの振り返り ・大町市生活支援コーディネーター選出 ※本会職員が選出された
	第3回	7月19日	・地域での認知症高齢者等見守りについて ・ザビック大町店空きスペースの有効活用について
	第4回	8月17日	・ザビック大町店空きスペースの活用について
	第5回	11月7日	・集いの場について ・訪問型サービスD勉強会
	第6回	1月10日	・今年度の振り返り ・買い物支援デリシアバス調査結果 ・商店街アンケート調査について

項 目	実施結果・内容
地域課題や地域資源の見える化	生活支援コーディネーターとして、地域の資源探しを実施。 地域の活動リストとして、地区別にリスト化したものを、市や支え合い体制づくり協議会委員また、市内を管轄している各居宅介護支援事業所へ配布した
サービス・支援の担い手となるボランティア等の養成	◆介護人材養成講座への協力（北アルプス広域連合主催） 9月～10月にかけて実施された標記講座として、サロン運営について実習研修を実施 ◆出前講座の実施 大北地区賛助会会員研修会において、福祉制度の成り立ちや地域活動の事例を交えて講話を実施 ◆小地域福祉ネットワーク研修会（再掲） 先進地事例を踏まえ、これから必要な地域活動について学ぶ機会を提供。

【評価と展望】

- 大町市は広く、地域によって特性があり、住民ニーズも違いがある。その中で中学校区単位での支援体制を構築することが急務である。
- 地区ごとに生活支援コーディネーターを設置し、市内3名体制で連携強化していくことが必要であり、各包括支援センターとの連携を深める。



ザ・ビック信濃大町店 空きスペースの有効活用

（左：大町おどり 中央：クリスマスオーナメントづくり 右：障がい作業所販売会）

3. 地域福祉活動団体の育成

市内で活動中の福祉団体に対する相談支援や助成金の交付を通して、各団体の育成を図りました。

(1) 企業ボランティア育成事業

項 目	実施内容・結果
企業が行う地域貢献活動との連携	<p>○ 本会役員を始め、本会が事務局を担う共同募金委員会などに民間企業の等参画を得る中で、地域活動等に理解いただくよう努めた。</p> <p>○ 大北地区労働者福祉協議会においては、生活困窮者への課題に対応すべく、メーデー等でフードバンク活動を行うとともに、災害等も含めいかなる場合でも対応できるよう食料の備蓄を始め、本会地域福祉担当及び生活困窮者相談担当者との連携を図った。</p>

【評価と展望】

○ 今後も、地域にある具体的な課題を把握し、その課題を企業等へ発信するよう努める。

(2) 地域福祉活動団体育成事業

項 目	実施内容・結果
福祉団体等の活動への助成	<p>○ 地区社協・福祉団体等が行う活動に対し、社協会費・共同募金配分金を財源に助成金を交付（4月申請受け付け、5月交付決定、6月交付終了）</p> <p>◆ 6地区社協 2,260,100円</p> <p>◆ 福祉団体10団体 285,000円</p>
ボランティア活動への助成	<p>○ ボランティア団体が行う活動に対し、5万円を限度に助成金を交付</p> <p>◆ 18団体 484,160円</p>
ボランティア活動保険掛金助成	<p>○ ボランティア活動保険掛金の一部（Aプラン140円/人・Bプラン170円/人）を助成</p> <p>◆ Aプラン 258,570円 Bプラン 107,750円</p>

● 地区社協助成金交付実績

（単位：円）

地区名	地域交流事業	啓発活動事業	ネットワーク支援事業	合計
大町	192,000	60,000	683,900	935,900
平	100,000	100,000	167,500	367,500
常盤	167,000	0	180,000	347,000
社	167,000	0	169,700	336,700
八坂	60,000	10,000	50,000	120,000
美麻	123,000	0	30,000	153,000
合計	809,000	170,000	1,281,100	2,260,100

●福祉団体助成金交付実績（共同募金財源）

（単位：円）

共同募金活動区分	団体名	助成額
老人福祉活動	大町市老人クラブ連合会	50,000
障害児・者福祉活動	大町市身体障害者福祉協会	35,000
	大町市手をつなぐ育成会	30,000
児童・青少年福祉活動	大町市子ども会育成連絡協議会	50,000
福祉育成・援助・組織化活動	大町市民生児童委員協議会	55,000
	大町市保護司会	25,000
	大町市遺族会	30,000
	大町市更生保護女性会	10,000
合計		285,000

● ボランティア活動団体助成金交付実績（社協会費財源）

（単位：円）

団体名	事業内容	助成額
安曇養護学校大町地区PTA	地域貢献活動（施設花植え等）	24,000
おさんぽの会「まつぼっくり」	地域貢献活動（子育て支援）	40,000
大町市婦人会	地域貢献活動（古紙回収等）	3,840
大町市朗読グループかっこう	福祉教育啓発活動（朗読図書作成等）	8,320
大町点訳ほたるの会	福祉教育啓発活動（広報紙の点訳）	16,000
シニア大学常盤地区同窓会睦会	地域貢献活動（駅前草刈活動等）	16,000
要約筆記サークルおきあがりこぼし	学習研修活動（学習会）	8,000
大町民話の里づくり「もんぺの会」	地域貢献活動（民話人形の修繕）	40,000
賛助会大町グループ	地域貢献活動（福祉施設交流等）	9,600
アルプスリンゴーズ	地域貢献活動（福祉施設交流等）	40,000
ファミリーサポートバンビ	学習研修活動（子ども向け調理実習等）	36,000
ゆずり葉の会	地域貢献活動（高齢者交流会）	40,000
大町山岳博物館友の会 ボランティアサークル	学習研修活動（ガイド研修会等）	40,000
スリーアールの会	地域貢献活動（不用食器の回収学習会）	20,800
ライチョウサロン	地域貢献活動（地域交流会の開催）	40,000
ルンタの風	国際交流、地域貢献活動（広報紙の発行）	32,000
オルカの輪	学習研修活動（障がい支援）	29,600
おはなしの会「やしろ」	学習研修活動（学習会）	40,000
合 計（18団体）		484,160

【評価と展望】

- 平成 30 年度助成分より、共同募金配分金財源で助成していた福祉団体への助成金が、新たな公募配分として一般公募による助成事業となった。新たな団体へ有効に共同募金が活用されるよう推進を図る。
- ボランティア活動団体への助成金交付により、地域貢献活動や学習研修活動等のボランティア活動の定着化と活動支援を図った。
- ボランティア基金を活用したボランティア活動保険掛金助成額増額に伴い、ボランティア活動保険加入の増加につながった。
- 今後も活用しやすい助成金制度について検討し、活動団体の育成を図っていく。